

平成 25 年 2 月 15 日
於：区議会大会議室

第 6 回 世田谷区基本構想審議会 次第

議 題

1．基本構想の検討について

2．その他

【資料】

- | | | |
|------|--------------------------------|--------|
| 資料 1 | 世田谷区基本構想（起草委員会案） | |
| 資料 2 | 世田谷区基本計画大綱たたき台（骨子）案 | |
| 資料 3 | 新たな基本構想に関する区民意見・提案発表会
実施報告書 | （当日配付） |
| 資料 4 | 区民アンケート実施結果について（年齢別） | （当日配付） |
| 資料 5 | 区長と区民の意見交換会の報告 | （当日配付） |
| 資料 6 | 基本構想・基本計画大綱の構成イメージ | （当日配付） |

《次回予定》

第 7 回審議会 3 月 28 日（金）18 時 30 分 区議会大会議室

世田谷区基本構想（起草委員会案）

世田谷区は、1932（昭和7）年から1936（昭和11）年にかけて、世田谷、駒沢、玉川、松沢、千歳、砧の2町4村が合併して生まれ、東京都内で最も多くの人々が暮らす住宅都市へと発展しました。わたしたちは、国分寺崖線や多くの河川、農地などの貴重な自然環境と地域の文化、伝統を大切にしつつ、自治を追求し、寛容で活気あふれる社会を築いてきました。

ただ金融、労働力、情報のグローバル化が進み、しかも高齢化の中で、かつてのような経済成長を前提とした社会はもはや望めません。格差や少子化、社会保障の維持、単身世帯対策などの課題に取り組むには、新たな発想が求められています。また東日本大震災と原子力発電所の事故は、災害への日ごろの備えがいかにより重要で、緊急の課題であるかを浮かび上がらせただけでなく、一人ひとりの生き方や地域社会に転換を迫りました。

一方で先人から受け継いだ、世田谷のみずとみどりに恵まれた住環境や、多様性を尊重してゆるやかに共存する文化、地域性を子どもや若者の世代へ引き継いでいかなければなりません。

これらの課題に立ち向かうため、わたしたちは基本構想として、今後めざす公共的なビジョンをまとめました。最長で20年先までを想定しています。区民が主体的に公にかかわり、地域とのつながりをさらに深めていけば、自治はより確かなものになり、きっと多くの課題を克服できると考えています。区は自治体としての権限をより広げ、計画的に行政を運営し、区民や事業者とともに、基本構想の実現に努めます。

九つのビジョン

一、個人を尊重し、人と人とのつながりを大切にする

個人の尊厳を尊重し、年齢、性別、国籍、障がいの有無、居住年数などにかかわらず、だれもが自分らしく暮らせる社会をつくっていきます。差別や偏見をなくし、男女が等しく社会の活動に参加し、活躍できるようにします。さらに人と人とのつながりを何より大切にして、一人ひとりが地域の中で自分のライフステージに沿って居場所や役割を見だし、長所を発揮できるよう努めます。世代を超えてだれでもいつでも集える場所も創設します。

一、子育て家庭が住みたい自治体ナンバー1をめざす

家庭、学校、地域、行政が一体となって教育環境を整えます。子育て家庭を日常的に支援し、交流の機会をつくるなどして、子どもとその親が住みたい自治体ナンバー1をめざします。区民やNPOによる子どもや若者のための活動も応援します。わたしたちは子どもの人権を守り、個性や能力を伸ばし、豊かな人間性を育みます。学校任せにせず、地域で子どもを育てます。また若者が希望を持って生活できるようサポートします。

一、健康で安心して暮らしていける基盤を確かなものにする

一人ひとりがこころとからだの健康や病気の予防を心がけ、できる範囲で公の役割をになえるような地域づくりを進めます。高齢化が進み、単身・小家族化していますが、安心して暮らしていけるように身近な地域で保健・医療や福祉サービスの基盤を確かなものにします。世田谷で実績のある地域の見守りや支援の活動をさらに広げ、シェアハウスなどの新たな住まいを希望する人も応援します。支援が必要な人とその家族を支える人材を地域で育てます。

一、しなやかな復元力を持つまちをつくる

老朽化しつつある社会インフラを更新するとともに、建物の不燃化や緊急避難道路の整備、豪雨対策など、災害に強い地域づくりに力を尽くします。小学校を防災とコミュニティの拠点とします。わたしたちは防災・減災の意識と知識を持ち、災害弱者になりやすい人への支援もふくめた連携を深めていきます。暮らしに不可欠なエネルギーや食糧などをある程度自分たちでまかなえるようにして、何かあってもしなやかに、すみやかに立ち直れるまちをつくります。

一、環境に配慮したまちづくりとライフスタイルを追求する

わたしたちは将来の世代に迷惑をかけないように、環境に配慮したまちづくりとライフスタイルを追求していきます。地球環境の問題も意識し、小さなエネルギーと省資源の暮らし、ごみの抑制、再生可能エネルギーの拡大、エネルギーの地産地消、公共交通機関や自転車の積極的な利用を進めます。また農地、屋敷林といった武蔵野の風景をはじめ、23区内でも希少なみずとみどりを継承し、その質と量の向上をはかります。

一、地域を支える産業を育み、職住近接が可能なまちにする

地域を支える商業、工業、農業などの産業を育成していきます。活気のある商店街や食の地産地消を可能にする農地は重要です。わたしたちは各分野で「世田谷」ブランドを創造し区内外に伝えます。区内に数多くある大学、NPOなどの専門性や人材を生かします。ソーシャルビジネスなどによって、若者や子育て中の女性、障がい者、お年寄りも働き手となる職住近接が可能なまちにします。仕事と生活の両方を大事するワークライフバランスに気を配ります。

一、文化・芸術・スポーツの活動をサポート、発信する

区内から多くの著名人が出ている文化・芸術・スポーツの分野では、区民の日常的な活動をさらにサポートし、より多くの人に親しむ機会を提供します。区民が生涯を通じて学び合い、文化やスポーツを楽しみ、世代を超えて交流できる地域の拠点をつくります。そこで生まれた文化や芸術をわたしたちは国内外に発信していきます。また、いまでも残る世田谷の伝統行事や昔ながらの生活文化も将来の世代に引き継ぎます。

一、より住みやすく歩いて楽しいまちにする

世田谷区は他の自治体に先駆け区民とともに総合的なまちづくりに取り組んできました。自然環境に恵まれた住宅地であるとともに、産業が地域を支え、文化・芸術・スポーツも盛んなまちにふさわしい都市整備を今後も進めます。まず駅周辺やバス交通、商店街と文化施設を結ぶ道路などを整えます。歴史ある世田谷の風景、街並みは守りつつ、地元の意見をよく聞きながら都市をデザインします。そして、より住みやすく、歩いて楽しいまちにしていきます。

一、ひとりでも多くの区民が主体的に区政や公の活動に参加する

区民一人ひとりが自治のにない手であり、区政に参加する機会を数多くつくります。ソーシャル・ネットワーキング・サービスも利用します。区民が地域自治を進めるための枠組みをつくります。区民が意見を述べるため、区をはじめ公の機関・組織は情報公開を徹底します。区民と区、公の機関・組織との情報の共有も必要です。わたしたちは町会・自治会やNPOなどの活動にも加わり、地域の課題に主体的に向き合う区民が一人でも多くなるよう努力します。

○区の役割

区はこの基本構想の実現に向けて、次の役割をにないます。

- ・基本構想にもとづいて、基本計画や実施計画などをつくります。
- ・基本構想や基本計画などについて、外部評価を実施し、計画から実施、評価、それを受けた改善のサイクルをつくり、検証しながら進めていきます。
- ・きめ細かい地域行政を展開するとともに、総合支所、出張所、まちづくりセンターなどでも区民が区政に参加する機会を数多くつくっていきます。
- ・持続可能な自治体経営に向けて、行政改革を進めるとともに財政基盤を強化します。
- ・自治体としての権限を広げるため、今後も都区制度の改革や財政自主権の確立に積極的に取り組みます。
- ・国や都と協力し、近隣自治体とも連携して広域的な課題に取り組みます。
- ・国内外の自治体との関係を深め、それぞれの特色を生かして、災害時の協力的体制などを築くほか、国際交流も進めていきます。

世田谷区基本計画大綱たたき台（骨子）案

- ・区が新たな基本構想のもとで策定することとしている基本計画の構成、基本的な考え方、枠組み等を整理し明らかにする。
- ・策定に向けては、基本構想審議会での議論や区民参加、区民意見聴取の取組みを踏まえるとともに、引き続きパブリックコメント等区民の意見を聴取する機会をつくり、幅広い区民の参加を得ながら進めるべきである。

1. 策定の背景

- ・基本構想で示された人口構成や家族形態の変化、経済成長を前提とした社会のしくみの行き詰まりといった将来展望、課題認識について示す。
- ・予想される区財政の見通し、公共施設や都市インフラの老朽化等の状況、自治権拡充の今後の見通しといった点について示す。

2. 視点

（1）基本計画の位置づけ

- ・基本計画は、基本構想のビジョンの実現のための重点的な取組みを示す実行計画であると同時に、行政サービスを総合的に体系化する総合計画であることにも留意し、策定を行う。

（2）基本方針

- ・基本構想におけるビジョンの実現に向け、次の二点を基本計画における基本方針とすべきである。

区民の区政参加、地域住民自治の確立

- ・区民の区政参加の機会を充実
- ・地域住民の意思と自治を尊重した地域運営
- ・区民や事業者の主体的な地域課題解決への支援

持続可能な地域社会づくりと自治体経営

- ・将来に負担を先送りせず、環境、財政両面で持続可能な自治体経営

3. 重点政策

- ・基本構想における9つのビジョンの実現に向けて、先導性、緊急性や分野横断的な観点から、次のような重点政策の検討を行うことが望まれる。

(1) 個人を尊重し、人と人とのつながりを大切にする

《例示》 ・人権を守る意識の普及啓発

(2) 子育て家庭が住みたい自治体ナンバー1をめざす

《例示》 ・子どもの健やかな育ちの支援
・子ども・若者が地域で輝く場と機会の充実
・教育環境の充実
・生きづらさを抱える子ども・若者の支援

(3) 健康で安心して暮らしていける基盤を確かなものにする

《例示》 ・区民、事業者等との協働による地域福祉の推進
・在宅生活を支える基盤の整備
・疾病の予防と健康づくりの推進

(4) しなやかな復元力を持つまちをつくる

《例示》 ・地域防災力の向上
・災害に強い街づくりの推進

(5) 環境に配慮したまちづくりとライフスタイルを追求する

《例示》 ・再生可能エネルギーの普及・拡大
・環境にやさしい交通の推進
・世田谷みどり33の推進

(6) 地域を支える産業を育み、職住近接が可能なまちにする

《例示》 ・世田谷にあった産業の育成
・地域産業の活性化

(7) 文化・芸術・スポーツの活動をサポート、発信する

《例示》 ・区内の文化・芸術資源を活かした取組みの推進
・世田谷発の文化の創造・発信
・スポーツの世田谷の推進・発信

(8) より住みやすく歩いて楽しいまちにする

《例示》 ・道路・交通ネットワークの整備
・世田谷らしい魅力あるまちづくり
・都市の骨格づくり
・良好な住環境の整備

(9) ひとりでも多くの区民が主体的に区政や公の活動に参加する

- 《例示》
- ・多様な区民参加の場と機会づくり
 - ・区民の地域活動への参加促進、区民主体の公共的サービスの発展
 - ・活動主体の活性化と活動主体間の協働の促進

(10) 自治権の拡充

- 《例示》
- ・都区制度改革の推進

4 . 分野別政策（政策体系）

- ・区政の各分野における方針と、総合的な政策の体系を示す。各分野の体系化にあたっては、概ね以下のような政策を柱とすべきである。

《例示》

(1) 健康・福祉（保健福祉に関する政策）

子育て支援、健康づくりの推進、等

(2) 暮らし・活力（区民生活や地域活性に関する政策）

コミュニティ振興と協働、文化・芸術の推進、産業振興、等

(3) 都市基盤整備（環境や都市整備に関する政策）

災害に強いまちづくり、みどりとやすらぎ、都市基盤の整備、等

(4) 教育（教育に関する政策）

教育環境の向上、生涯学習の推進、等

5 . 実現の方策

- ・基本計画を推進するにあたり、以下に留意すべきである。

《例示》

- ・行政評価の仕組みの充実
- ・情報公開の推進と区民参加の機会と場づくり
- ・地域行政の推進
- ・持続可能な自治体経営の確保
- ・自治権の拡充に向けた取り組み

新たな基本構想に関する区民意見・提案発表会
実施報告書

平成25年2月

目次

I. 実施概要	1
1. 目的.....	1
2. 開催日時.....	1
3. 開催場所.....	1
4. 募集内容.....	1
5. 発表者.....	1
6. スケジュール.....	1
II. 実施結果	2
1. 全体概要.....	2
2. 発表.....	5
1 - NPO 法人えこひろば.....	7
2 - 昭和女子大学大学院 福祉社会研究グループ.....	9
3 - 世田谷環境学習会まち研究部会.....	11
4 - 太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会.....	13
5 - 知恵の会.....	15
6 - 都市政策フォーラム.....	17
7 - トランジション世田谷茶沢会.....	20
8 - ネクスト 20.....	23
3. 発表.....	25
9 - NPO 法人カプラー.....	27
10 - 喜多見ポンポコ会議.....	29
11 - 世田谷おもちゃコンサルタント有志の会.....	31
12 - RRR プロジェクト.....	33
13 - 世田谷トラストまちづくり大学同窓会.....	35
14 - 一般社団法人日本土地資源協会.....	37
15 - 基本構想を考える職員研究会.....	39
4. 発表.....	41
16 - 劇団・世田谷かみしばい.....	43
17 - 日本大学文理学部後藤ゼミナール.....	45
18 - 日本大学文理学部世田谷スタディーズ.....	47
19 - NPO 法人玉川まちづくりハウス.....	49
20 - 世田谷福祉 100 人委員会.....	51
21 - わいわいコミュニティ・たまがわ.....	53
22 - 区民ワークショップ 19 班.....	55
5. 発表.....	57
23 - 江頭智子様.....	59
24 - エンジョイ子育て応援隊.....	61
25 - きっずタウン・プロジェクト.....	63
26 - 駒沢ドッグストリートプロジェクト.....	65
27 - NPO 法人世田谷さくら会.....	67
28 - NPO 法人せたがや子育てネット.....	69
29 - NPO 法人世田谷区視力障害者福祉協会.....	71

1. 実施概要

1. 目的

日頃から区内で活動している地域団体などの皆さまからの意見・提案を基本構想審議会の議論に生かすため発表会を実施した。

2. 開催日時

平成25年1月12日(土)午後1:00~午後5:20

3. 開催場所

世田谷区役所第2庁舎4階 区議会大会議室

4. 募集内容

これまでの基本構想審議会・部会の議論を踏まえた「20年後の世田谷区が目指すべき姿」についての意見・提案

5. 発表者

区内に事務所や事業所を有する3人以上で構成される法人・団体、または区内在住・在勤・在学者による3人以上の連名によるグループを対象に募集を行ったところ、申し込みのあった29団体

6. スケジュール

当日のスケジュールは下記の通り

図表I-1 全体スケジュール

12:30~	受付開始(発表者、傍聴)
13:00~	開会
13:02~13:07	区長挨拶
13:07~13:10	ガイダンス(進行者)流れの説明
13:10~14:05	発表①(8団体×5分=40分、発表者交代10分、委員コメント5分(2,3人)) 発表者の交代等5~10分休憩(時間オーバーの調整)
14:15~15:05	発表②(7団体×5分=35分、発表者交代10分、委員コメント5分(2,3人)) 15分休憩(時間オーバーの調整)
15:20~16:10	発表③(7団体×5分=35分、発表者交代10分、委員コメント5分(2,3人)) 発表者の交代等5~10分休憩(時間オーバーの調整)
16:20~17:10	発表④(7団体×5分=35分、発表者交代10分、委員コメント5分(2,3人))
17:10~17:15	提案総括(審議会会長)
17:15~17:20	閉会:区長挨拶

II. 実施結果

1. 全体概要

29 団体より、下記の通り発表があった。

図表II-1 発表者一覧

番号	発表	団体名または代表名	提案概要
1		NPO 法人えこひろば	3R の推進で、ごみ減量と資源を大切に使う暮らし方の普及
2		昭和女子大学大学院 福祉社会研究グループ	自転車や歩行者の安全を図る～環境、健康の地域づくりの視点～
3		世田谷環境学習会まち研究部会	防災で地域のつながりを強化
4		太子堂 2・3 丁目地区まちづくり協議会	良好な住宅地の維持と世田谷市の実現
5		知恵の会	人口密度の適正化 果樹の植樹 野菜等の自給自足
6		都市政策フォーラム	区と区民の信頼関係の確立、産業が区民生活を潤す 景観保持等
7		トランジション世田谷茶沢会	地域エネルギーシフトの達成 食の地産地消 修復型の公共事業
8		ネクスト 20	目指すべき姿 7 件：区民が主体でつくるみんなの世田谷ほか
9		NPO 法人カブラー	地域の課題に区民が挑む「ビジネスが生まれるまち・せたがや」
10		喜多見ボンボコ会議	歴史、自然、農地、伝統行事などの大切さを共有し協力して支える仕組みを
11		世田谷おもちゃコンサルタント有志の会	現役世代が元気な区、ライフワークバランスの実現 地域のつながり強化
12		RRR プロジェクト	子ども・若者の社会参加、社会参画の推進とそのため地域の拠点の整備
13		世田谷トラストまちづくり大学同窓会	多世代が交流しながら、地域のつながりを強化・活性化させる コミュニティスクールを創る
14		一般社団法人日本土地資源協会	多世代の区民が支えあい、誰もが最後まで安心して住めるまち
15		基本構想を考える職員研究会	区民が住み続けたいくなるような魅力あるまちへ
16		劇団・世田谷かみしばい	災害時水供給タンク、広域避難所への誘導デザインの導入
17		日本大学文理学部後藤ゼミナール	地域資源の発掘と共有化 異質多様な人々をつなぐ居場所の創出 共生社会の実質化
18		日本大学文理学部世田谷スタジオ	学びでつなげる「共育」環境の創造と地域連帯感の創出
19		NPO 法人玉川まちづくりハウス	コミュニティの中に様々なコモンズを生み出すことにより、近隣の自治を実現
20		世田谷福祉 100 人委員会	区民、事業者、NPO 等の政策立案・評価への参画による真の区民参加型コミュニティの実現
21		わいわいコミュニティ・たまがわ	誰にでも居場所がある寛容なまちをつくること 人と人との顔が見える関係作りの拠点
22		区民ワークショップ 19 班	ワークショップでの提案内容(コミュニティ・環境)
23		江頭智子様	若者も高齢者も生き生きと力溢れた街
24		エンジョイ子育て応援隊	子育て世代の孤立を無くし、多世代が共に子供たちの成長を見守り育むことの出来る地域社会の実現
25		きっずタウン・プロジェクト	子育て世帯が住みたい街 No.1 地域で生涯子育てを楽しむ街
26		駒沢ドッグストリートプロジェクト	学び楽しみ高め合う、だれもが生活を楽しめるまちの実現
27		NPO 法人世田谷さくら会	心の健康を保持できる環境の整備 精神保健の充実、アウトリーチ型精神保健センター設置
28		NPO 法人せたがや子育てネット	支所単位の虐待発生予防的な子育て支援ネットワークの構築
29		NPO 法人世田谷区視力障害者福祉協会	地域での共生：障害があっても高齢になっても地域で生活できる

発表会終了後には世田谷区基本構想審議会の森岡清志会長より、下記の通り、コメントがあった。

図表II-2 森岡会長からのコメント

- ・締め切りの1週間前には10数団体であったが、直前に数多くの申し込みがあり、最終的には、当初の予想を上回る29団体からの発表があった。
- ・各団体の参加に感謝するとともに、各チーム5分という厳しい時間制限を守り、時間内で素晴らしい発表をして頂いたことに御礼を申し上げたい。
- ・それぞれの発表は非常に興味深く、具体的な事業や事柄について、基本構想に直接記載することは難しいが、発表の精神、想いは尊重し、参考にしたい。
- ・中には基本構想をむしろ区民に書いて頂き、それを審議会で修正したほうがよかったのではないかと思わせるような発表もあり、大変感銘を受けた。
- ・世田谷の魅力、よいところを今後20年も守ってほしいという熱い想い、今後は住宅が資源になっていくので、最後に住み続けられる世田谷にしてほしいという想いを強く感じた。
- ・世田谷区は人材が豊富であることを改めて認識するとともに、区民の意見を積極的に取り入れ、本当の意味での住民参画を実現していく、そんな街でありたいと思った。区と住民の信頼関係を再び取り戻すためにも、我々も住民参画を重視し、基本構想を策定していきたい。
- ・私から区民から直接意見を発表してもらおう場の設置を世田谷区に要望し、はじめて「新たな基本構想に関する区民意見・提案発表会」を実施した。開催して良かったと思う一方で、審議会の設置される前など、もっと早い時期に開催したらより良かったとも感じた。複数回、こうした区民が主役となる発表会を開催し、基本構想策定に向けた機運が高まった後に、審議会を設置し、審議会にて区民が作った案にアドバイスを行い、練り上げ、基本構想を策定するという流れでも良かったかもしれない。この点は反省点として、今後活かしていきたい。
- ・本日、頂いた意見は参考にし、できる限り、基本構想に反映していく。

2. 発表

発表 では下記の通り 8 団体から発表があった。

図表II-3 発表 の参加者

番号	団体名または代表者名	提案概要
1	NPO 法人えこひろば	3R の推進で、ごみ減量と資源を大切に使う暮らし方の普及
2	昭和女子大学大学院 福祉社会研究グループ	自転車や歩行者の安全を図る～環境、健康の地域づくりの視点～
3	世田谷環境学習会まち研究部会	防災で地域のつながりを強化
4	太子堂 2・3 丁目地区まちづくり協議会	良好な住宅地の維持と世田谷市の実現
5	知恵の会	人口密度の適正化 果樹の植樹 野菜等の自給自足
6	都市政策フォーラム	区と区民の信頼関係の確立、産業が区民生活を潤す 景観保持等
7	トランジション世田谷茶沢会	地域エネルギーシフトの達成 食の地産地消 修復型の公共事業
8	ネクスト 20	目指すべき姿 7 件：区民が主体でつくるみんなの世田谷ほか

また、世田谷区基本構想審議会から、森岡清志会長、宮台真司会長職務代理、竹田昌弘委員、宇田川國一委員、永井ふみ委員、風間ゆたか委員、上島よしもり委員の参加があり、発表終了後全体に対し、次頁の通り、コメントがあった。

図表II-4 発表 での委員からのコメント

永井ふみ委員

- ・ NPO法人えこひろばからは、ものを大切にすることの重要性を指摘していたが、3Rの考え方も基本構想の中に盛り込んでいきたいと感じた。
- ・ 昭和女子大学大学院 福祉社会研究グループの発表では、私有の自転車も重要だが、自転車置き場の問題もあるため、シェアやレンタルにも着目すべきと感じた。
- ・ 個人情報の問題もあるため、地域住民でないと災害弱者の情報の状況が把握できないことから、世田谷環境学習会まち研究部会が提案したように、地域住民がマップを作って学んでいくことは大切である。今後は、防災に加えて防犯のマップも作っていければよいと思う。
- ・ 太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会の指摘を受けて、世田谷区の住環境の保全をしていくなかで、都市の成長のコントロールを考えていかないとならないと感じた。都市のコントロールの中には、行政でないとできないこともあるため、基本構想にも反映していきたい。
- ・ 知恵の会は、配付資料に記載されている条例についての意見も聞きたかった。
- ・ 都市政策フォーラム（有志）が指摘したように「学びなくては参加なし」、「区民と行政の信頼関係」が大切だと思う。世田谷区には基本構想の案を提示しているが、今後、このキーワードも盛り込んでいきたい。
- ・ トランジション世田谷茶沢会が言及した「ニーズから来る経済」という考え方が興味深かった。
- ・ ネクスト20からは、改めて行政の区民目線、地域ごとに区民が特性を踏まえたビジョンを作っていくことが大切だと感じた。

宮台真司委員

- ・ 具体的な参加のイメージが伝わる発表が多く、特に世田谷環境学習会まち研究部会が発表した災害まちあるきは、参加を通じた学びの機会が満ちていると感じた。
- ・ 世田谷は非常に人口規模が大きい区であることから、町内会など可能な限り小さい単位において合意形成の機会や場が必要だろう。これについて例をあげると、沖縄県で基地の返還で上手く進まない理由は、基地の跡地利用について地域側の方向性が見えておらず、行政も市民が本気でないと感じているためである。区民が行政に依存する体質から自立に転換していくことが大切である。

各団体の発表内容の詳細は次頁以降の通りである。

図表II-5 NPO法人えこひろばの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 NPO 法人えこひろば 【発表代表者】 阿部 晴子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p><u>「3Rの推進で、ごみの減量と資源を大切に使う暮らし方の普及」</u></p> <p>第2部会の「環境への負担軽減を目指す」具体的内容として、エネルギーの観点での議論はありますが、資源や廃棄物の観点から、ごみの少ない暮らし方を世田谷区内に普及・定着させることについては言及がありません。3R（リデュース、リユース、リサイクル）のうち、特に、ごみの発生抑制を心がけ、限られた資源を大切に活用し、循環させる暮らし方を世田谷で普及させることが、「20年後の世田谷が目指すべき姿」として持続可能な環境先進都市にふさわしいと考えます。</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってほしいこと</p> <p>【区民ができること】 ごみの少ない暮らし方を一般区民が楽しみながら実践する。そのためには、区民が参加しやすい資源循環の情報提供やシステム作りが大切であり、様々な活動団体や事業者が区と協力して、地域コミュニティを活かした普及啓発活動を行う。</p> <p>【区に担ってほしいこと】 地域の状況にあった資源循環のシステム作りを区民参加で推進する。区民が参加しやすいシステムを作るには、区の施設の活用を図り、区報やイベントなどで、ごみの少ない暮らし方の情報提供や普及啓発を行う。</p>

- ・トップバッターに当たりまして、ちょっと緊張しておりますけれども、5分間守るように頑張ります。
- ・「3Rの推進で、ごみの減量と資源を大切に使う暮らし方の普及」というテーマでお話します。えこひろばの阿部と申します。えこひろばは資源やエネルギーを大切にする暮らしを地域に広げたいと、主に世田谷区内で活動してきたNPO法人です。NPO法人になって今年で12年になります。今回新たな基本構想策定の議論の中で、第2部会の環境への負荷低減を目指す具体的な内容としてエネルギーの観点での意見はありますが、資源や廃棄物の観点からの意見が少ないようでしたので、一言述べさせていただきます。
- ・えこひろばの活動を始めたきっかけは、こんなにごみの多い生活をしていて大丈夫なの、という疑問からでしたが、活動の中で気づいたことは、リサイクルを徹底しただけではごみは減らない、ものを買う時から考えて選ぶことが大切、ということでした。平成12年に公布された国の法律、「循環型社会形成推進基本法」という長ったらしい法律ですが、ごみを減らす3Rの優先順位として、第一にリデュース（発生抑制）、第二にリユース（再使用）、第三にリサイクル、そして最後に適正な処理・処分と明確に定めています。世田谷区が目指すべき豊かな暮らしは、経済成長を前提とした大量消費の、ものが溢れる暮らしではありません。必要なものをしっかり選んで買い、貴重な資源やエネルギーを大切に活用する、そういうことがごみの量と環境への負荷を減らし、これからの低成長時代に豊かに暮らすカギなのではないでしょうか。
- ・実現に向けて区民ができることは、一言で言えばライフスタイルを見直して変えることです。ただし、今まで慣れ親しんだ暮らし方を変えることはそう簡単ではありません。ごみの少ない暮らし方を一般の区民が楽しみながら実践できる、そんな暮らし方に変えたいという動機づけが必要です。その方法としてまずできることは、個人として家庭で気軽に取り組めることの情報提供です。それに加えて、ものづくりの楽しさを体験できる講習会や、地域のフリーマーケット情報、一般の区民が参加しやすい地域の資源循環のシステムづくりなど、地域コミュニティを生かして様々な活動団体が区と協働することで効果的にできることがたくさんあります。参加することが楽しかったりおもしろかったり、また、楽だったりお得だったりすることなら、地域で参加者の輪が自然に広がっていくと思います。特に、次の時代を担う子どもたちへの資源を大切にする心を育てる体験を重視した働きかけは、最も大切なことです。
- ・資源循環のシステムづくりには、消費者や行政だけの取り組みだけではなく、販売者やメーカーとの協力も欠かせません。エコな商品やエコ・ライフはコマーシャルでは大流行ですが、ちょっとはマシ程度の内容がほとんどです。環境への負荷が少ない商品の方が売れる社会にしていくためには、様々な立場の人たちが知恵を出し合う必要があります。
- ・次に、区に担ってもらいたいことについてです。今までお話した、区民ができることの内容は、区民だけで実践するよりも、広報力、公共施設、区民への信頼性のある区と協働で実施することが効果的であり、区にとっても、ごみ処理コストや、それに伴う消費エネルギーを減らす、メリットの大きい事業だと考えています。区の施設の活用を図り、区のおしらせや地域イベントなどで、ごみの少ない暮らし方の情報提供や普及啓発を区民と協働で行っていただきたいし、地域の状況に合った、区民が参加しやすい資源循環のシステムづくりや、ごみの量が少ない方が費用負担も少ない制度づくりに取り組んでいただきたいと思います。
- ・資源やエネルギーを大切に活用することで、世田谷区が環境に配慮して気持ちよく心豊かに暮らせるまちのモデルになることを願っています。しかもっ面ではなく、楽しみながらごみの少ない暮らし方に変えていく、そんな地域社会を目指したいと思っています。以上です。

図表II-7 昭和女子大学大学院 福祉社会研究グループの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 昭和女子大学大学院 福祉社会研究グループ 【発表代表者】 狩野 聖子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「自転車や歩行の安全をはかる～環境、健康の地域づくりの視点～」</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってもらいたいこと</p> <p>歩行、自転車を日常生活の主な移動手段とする地域にしたい。歩行者、自転車が安全に配慮して共存するため道路の利用の工夫が必要で、大きく2つの選択肢があると思われます。</p> <p>現在の歩行用道路を自転車と歩行者に分離して利用する。 現在の自動車道に安全を優先した構造の自転車専用レーンをつくり、そのネットワークを整備する。</p> <p>利点は、災害時の移動手段、区民の健康増進、CO2削減で環境改善、内外の自転車マニアを呼び込み地域活性化につながる。</p> <p>結論：「自転車文化」を区内から育て、地域独自の豊かさを追求する。</p>

- ・狩野聖子です。よろしくお願ひします。では、さっそく発表を始めさせていただきます。
- ・「自転車や歩行の安全をはかる～環境、健康の地域づくりの視点～」内容としては、地域づくりについて述べたいと思います。私は毎日自転車に乗り、通学をしています。それらの経験も踏まえ、本日は提案をさせていただきます。
- ・私は、自宅のある深沢から大学のある太子堂まで、約 25 分かけて通学しています。その中で、毎朝の通学時間帯には、急ぎ飛ばしている自転車とすれ違い、危険な思いをします。さらには、お子さまを乗せ、二人乗りで、猛スピードで飛ばしている自転車とすれ違い、こちらが怖くて止まるほどの体験も幾度もあります。これらは、決して私だけの問題ではなく、世田谷区民の問題ではないでしょうか。世田谷区は人口の多い地域ですが、自転車の利用も多い、子どもの二人乗りも頻繁に見ます。大きな公園では自転車の利用も多い。このような印象があります。この方々も、私と同じ不安を持っていると思われるます。
- ・この不安を解消し、安全を確保するため、何らかの形で自転車道を確保することが必要なのではないのでしょうか。自転車道確保の方法は二つほどあると思います。例えば 246 号線でイメージすると、一つは、現在の歩行用道路を自転車と歩行者に分離して利用することです。二つ目は、現在の自動車道に安全を優先した構造の自転車専用レーンをつくり、そのネットワークを整備することです。道路利用者、住民、行政が話し合い、その地域に合った様式で実現できるようにしたいと思っています。
- ・最後に、自転車ネットワークの開発事業内容のイメージを述べておきます。
 - 商店街をつなぐ自転車ルート開発
 - 公園、河川、みどりをつなぐ自転車ルート開発
 - 高齢者等の外出、買い物、通院の自転車による援助、あるいは若者の通学・通勤等に自転車の活用の奨励
 - 商店街からの近隣共同自転車宅配
 - 自転車用観光ポイントの開発
 - 放置自転車の貸自転車業
 - 自転車リサイクル業
 - 宅配自転車、自転車タクシー等、利用目的に合った自転車の開発をコミュニティビジネスとして創出
 - 自転車利用者、歩行者のトイレ等のレストハウスの設置
 - 自転車道と隣接地域の緑地帯化
 - 自転車ネットワーク構想を具体化し、取り組みを促進する交流組織をつくり、地域活性化につなげる
 - 自転車マナーを普及する取り組み
 - 災害時の移動手段としての自転車の活用体制
- ・これらを一言で言えば、自転車文化の創造です。世田谷区内で自転車文化を育て、地域発の文化として追求する。20 年後の世田谷区の姿として、私は安全、環境、健康の三つの視点から、歩行と自転車を生活の移動・物流手段として積極的に生かし、自転車道ネットワークを中心に自転車関連の技術開発を集積した世田谷区になればよいと思います。以上で発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。

図表II-9 世田谷環境学習会まち研究部会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 世田谷環境学習会まち研究部会 【発表代表者】 渡辺 美砂</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「防災で地域のつながりを強化」</p> <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>【実現に向け区民ができること】</p> <p>3.11 東日本大震災では、東京でも大勢の人が帰宅困難となるなど被害が出ました。その後、防災、減災への意識は高まっているものの、実際に自分の住むまちにどんな備えがあるのか、危険箇所はどこか、避難場所はどこなのかなど日ごろなかなか認識することができません。</p> <p>そこで、災害時を想定して、実際にまちを歩いて自分の目で見てみると、商店街でのたくさんある街灯や看板などが落ちてきそうで危険、火事の危険があるのに消火栓はあっても消火器が少ない、意外と公衆電話が設置されている、AED はあっても表示されているところが少なく外からは分かりにくい、ライフラインベンダー（災害時に無料提供される自販機）は誰が管理して無料設定をしてくれるのか分からないなど様々なことを気づかされます。そして、災害時の安全を確保し災害後に避難生活の負担をできるだけ減らし速やかな復興まちづくりができるように、何ができるかを考える意識が生まれます。実際に世田谷環境学習会まち研究部会が2012年11月16日に三軒茶屋周辺で実施した「災害まち歩き」で体験して実感したことでした。</p> <p>このような「災害まち歩き」を地域に提供し普及することを提案します。</p> <p>「災害まち歩き」に参加した後、参加者が体験したことや学んだことを地域の人たちに伝える担い手になり、地域をつないで災害に強いまちづくりに貢献できればと考えています。</p> <p>【区に担ってほしいこと】</p> <p>上記を実現するために、世田谷区都市整備部都市計画課が「災害まち歩き」のような「防災タウンウォッチング」の取り組みを呼びかけていますが、地域で取り組めるように「防災タウンウォッチング」の講師を派遣する制度の設置を要望します。</p>

- ・世田谷環境学習会まち研究部会の渡辺と河合です。今日はパワーポイントを使いますので、失礼して座らせていただきます。
- ・私たちは 20 年後の世田谷区が目指すべき姿として、「防災で地域のつながりを強化」について提案したいと思います。私たち世田谷環境学習会まち研究部会については資料の置いてある机にチラシがありますので、ご覧いただければと思います。
- ・実現に向け区民ができることについては、日本を大変揺るがせた 3.11 東日本大震災以降、防災、減災への意識は高まっているものの、実際に自分の住むまちにどんな備えがあるのか、危険箇所はどこか、避難場所はどこなのかなど、日ごろなかなか認識することができません。そこで、災害時を想定して実際にまちを歩いて、自分の目で見てみる「災害まち歩き」をすると、様々な大切なことに気づかされます。そして、災害時の安全を確保し、災害後に避難生活の負担をできるだけ減らし、速やかに復興まちづくりができるように、何ができるかを考える意識が生まれます。これは実際にまち研究部会が昨年 11 月に三軒茶屋周辺で実施した「災害まち歩き」で体験して実感したことでした。このような「災害まち歩き」を、地域に提供し普及することを提案します。
- ・昨年実施した「災害まち歩き」は、世田谷まちづくりファンドの助成金を活用して講師をお願いして実施しました。この写真は三軒茶屋の商店街です。上の方を見ると街灯がたくさんあって、これで大きな地震が起きたら落ちてきそうな危険を感じました。公衆電話が意外と多かったです。ライフラインベンダー（災害時に無料提供される自販機）があることを初めて知りました。子ども広場公園では、震災対策用応急給水施設より給水体験をしたり、公園のマンホールを使って災害時トイレを組み立てました。防災倉庫を見学しました。左側は災害時に役に立ちそうなポイントが示してあります。このポイントを歩きながら見つけたところにシールを貼ったものが右側のMAPです。一目で災害時に役に立つものの情報がわかりますよね。参加者には大変好評でした。今回、区の職員が協力してくれたおかげで、トイレ設置訓練や給水体験など普段できない貴重な体験ができました。また、防災倉庫にある食糧や物資は、避難困難な弱者や乳幼児向けということ、それから、ジャッキやバールなど復旧に役立ちそうなものの備蓄がないなどがわかりました。
- ・このような「災害まち歩き」を地域に普及し、提供することを提案します。「災害まち歩き」に参加した後、参加者が体験したことや学んだことを地域の人たちに伝える担い手となり、地域をつないで災害に強いまちづくりに貢献できればと考えています。
- ・実際に、世田谷区では既に、「防災タウンウォッチング」の取り組みを呼びかけています。このハンドブックにつきましては、後ろの方に置いてありますので、ご興味のある方はお帰りにお持ちください。
- ・世田谷区の都市整備部都市計画課への要望については、私たちが今回この「災害まち歩き」を行うに当たりましては、講師をお願いしています。私たち自身でやるよりも、専門的なアドバイスを受けた方がより効果的に行うことができると実感しました。そこで、区での取り組みを発展させる形で、「災害まち歩き」を地域で取り組めるように、「防災タウンウォッチング」の講師を派遣する制度の設置を要望します。以上です。

4 - 太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会

図表II-11 太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会 【発表代表者】 藤村 貞夫</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「良好な住宅地の維持」 & 「世田谷市の実現」</p> <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>区民として住み続けられるまちづくりを長年区と協働で行ってきたが、一部での過度な高度利用計画がこのまま進むと世田谷らしさが失われてしまう。区は住宅環境に悪影響を及ぼさない対策を取る必要があり、現体制で実現不可であれば特別区から市への移行も考えるべきである。それにより、福祉・教育すべての分野で地域にふさわしい施策・計画が住民参加で実現できる。</p>

- ・われわれの活動を少しご紹介しておきます。30年以上にわたり、毎月、区の職員も参加して防災、住民参加の住み続けられるまちについて協議しています。いわゆる場の提供で、地区の誰もが参加できる団体ですので、本日の意見もオーソライズされたものではありませんことをご了解ください。三軒茶屋の交差点から北東方向の一角がエリアです。
- ・10の中間提案をしましたが、そのうちの 하나가、烏山川緑道の再整備で、今実現してかなりよい緑道になっております。
- ・住宅地は世田谷の基本、われわれの提案は明確です。良好な住宅地の維持なくして世田谷の未来はありません。そういう意味で最も重要視される事項ですし、審議会の中でもかなりそういうことを発表されていたにもかかわらず、こういうことが重視されないで今の構想案になっていることに怒りを感じます。
- ・良好な住宅地の維持のためには、阻害要因を排除しなければいけません。構想案にあるような第三者的な人口の推移の見方ではなく、人口がこれ以上増えないような方向性を示すべきです。これにより、世田谷区の価値は高まります。高層建築の制限が必要です。これは二子玉川の高層ビル・マンションを見ているのですが、こういう高層マンションがかなり加速度的に区内に多くなっています。景観の阻害や、日陰、日照の影響が多く出ています。マンション業者が儲けるだけのために多くの区民の住宅地の価値が下がるような現実を放置すべきではありません。土地が日陰では高く売れませんよね。庭からの景観が悪いと高く売れませんよ。区が推進している太陽光発電もこういうビルのおかげで屋上にパネルが設置できませんよ。こんなものが軒並み建つ世田谷でよいのでしょうか。住宅地のすぐ脇にこのような高層マンションが建てられ続けています。そのスピードは加速度的です。高層マンションは免震や長周期震動とか、まだまだ新しい技術や未解決の問題を含んでいます。災害時直後に区や区民が対処できる範囲での住宅地のイメージをみんなでつくらなければなりません。私も消防団で活躍していますが、このような高層マンションの揺れが激しくて、タンスの下敷きになったりしている状況も起こるわけです。そうかと言って、低層の住宅では火事が起きているわけです。今はそんな両方のことをいっぺんにできるような体制ではありません。ヒューマンなスケールでまちをつくらなければいけないと思います。
- ・ただ、再開発とか、区民に有益なものはあるかもしれません。取捨選択してまちづくりをしなければいけないと思います。成城や上野毛だけが住宅地ではなく、三軒茶屋もすぐ裏はよい住宅地なのです。商店街もよい商店街があります。住民の総意で地区計画を策定しても、東京都に申請する総合設計制度などで、その制限を超えて高層マンションなどが存在します。区が独自の施策をしようとしてもマンション業者が都に働きかけて、それを阻止しようとするようなことは目に見えています。
- ・世田谷が独自の施策を実行できるよう、23区からの離脱も方向性として示すべきです。都市計画の分野こそ一時的な場所にならない真価が発揮できる分野だと思います。せっかくの区民の総意で新しい区長が選ばれ、今までのやり方ではダメだという方向性が出たのですから、審議会委員のみなさまも力を込めて、その新しい方向を提案してください。私も時間の限り審議会を傍聴してきましたが、そういうことが盛り込めていないような気がします。以上です。

図表II-13 知恵の会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 知恵の会 【発表代表者】 植田 健一</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「人口密度の適正化」 「果樹の植樹」 「野菜等の自給自足」</p> <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知恵のある人材を集める ・ 条例の新設

・植田と申します。よろしくお願ひいたします。

(「そんとくかんじょう」と板書する)

。私はこの漢字を覚えていないのですが、誰か漢字の上手な方に書いていただけないでしょうか。ありがとうございます。では、お願ひします。

(「損得勘定」と板書される)

・みなさん、この字で合っていますよね。他に何か漢字はありますか。ないですよね。私もこういう字を学校で習ったのですが、毎日忘れよう忘れようとしても忘れられないでいます。正直、覚えていたのです。私はこういう字を書くのです。

(「尊徳感情」と板書)

・私はこの漢字を一生懸命覚えていたのです。徳を尊び、情を感じると書きます。なぜ「損得勘定」を忘れようとして「尊徳感情」を覚えようとしているかと言いますと、すばらしいことをやっても崖っぷちに立ったときには必ず「損得勘定」が働くのです。「損得勘定」が働いて重い荷物を持った人を崖から突き落として自分は助かるのです。必ずこういうことが繰り返されるのです。そういう時には、「損得勘定」を捨てて「尊徳感情」を持って、すばらしいことをやっていたきたいと思います。以上です。ありがとうございました。

図表II-15 都市政策フォーラムの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 都市政策フォーラム（有志） 【発表代表者】 稲垣 道子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下 11 月 15 日区報による部会報告と重複しない事項に限定（主な事項） 区と区民の間に信頼関係が確立している 住宅都市を支え、住宅都市にふさわしい働き場や機会を提供する産業・ビジネスが区財政・区民生活を潤している 教育・医療・福祉の領域でセーフティネットが用意されている 手入れされ、道行く人々の心を和ませ弾ませる景観が保たれている <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>【区民ができること・すべきこと】 自ら学び、経験や視野を広げて区民力の向上を図ること 上記に可能な貢献・寄与をすること</p> <p>【区に担ってほしいこと・担うべきこと】 基本構想の規範性を担保するしくみを条例等で定めること 信頼関係樹立のため、合意形成のルールを確立すること 行政能力・職員能力の向上を図ること（想定外の事態への対応に備えて） 個人や団体等との役割分担に当たっては、成果の評価を第3者機関が行うしくみを構築すること</p>

- ・みなさんこんにちは。今の発表はすごく和む発表でしたが、私の方は早口でまくし立てないといけなそうで、大変申し訳ございません。それから、黄色い資料をたくさん台に置いてあります。これに書いてあることはほとんど発表できないと思いますので、ぜひお読みください。
- ・まず、20年後の世田谷区が目指すべき姿の提案ですが、目指す姿を書くというのと、行動指針のようなものを書くやり方とあると思いますが、これについては資料の最後のページに書いてありますので、ぜひお読みください。私たちは提案のフローとして世田谷区の今後の20年、20年後をどう考えるか、世田谷区の特性は何か、それらを受けて世田谷区の全体像として安定した地域社会が存在していることを目指すというのを挙げました。では安定したとはどういうことかも考えました。このような全体像を四つの提案に分解して提案しております。
- ・世田谷区の今後、激動とか激変とか書きましたが、そうならなければよいのですが、想定外の災害が発生するとか経済状況が悪化するとか、悪いこととは限りませんが、人口減少が早まるとかが起こるかもしれない。行政需要の激増とか財政状況の逼迫などは必ずあるでしょうし、地域間の差も拡大するであろうということを20年について考えています。
- ・特性については四つに絞って、住民参加の先進事例と目されてきた経緯がある、基本的にはベッドタウンである、急激なブランド化を経て人気の住宅地となったこと、街は低層住宅地を主体としているというのがあります。急激なブランド化というのは、ブランド化以前から住んでいる人とブランド化以降住んでいる人が存在するというところで、ちょっと気をつけておいた方がよいかと思っています。次に安定した地域社会。これは全区レベルでも、身近なレベルでもということです。
- ・では、安定したとは何だろうと。行政に対する信頼感が確立している。区民間の経済的その他の格差が小さい。区外への依存度を少しでも減らしている。(難しいですね。)街の姿が激変しにくい。政策の優先順位がぶれない。この五つを挙げました。
- ・全体像から四つの提案に分けて、信頼関係のこと、区財政・区民生活の潤い・ゆとり、セーフティネット、街の姿をどうするか、この四つに絞って提案いたしました。
- ・「区と区民の間に信頼関係が確立している」については、3.11以降のことを考えれば必要なのははっきりしていると思います。次に、「住宅都市にふさわしい産業・ビジネスが区財政・区民生活を潤している」ということなのですが、これから高齢者が増える、グラフをお見せできないのが残念なのですが、昼間も夜も区内にいる人が増えてくるということで、行政需要も多くなっていくのですが、こういうことについて「区民が区内で収入を得て納税する機会が増えている」とか、「各種のサービスが地産地消で成り立つ」ことを目指したいと思います。「教育・医療・福祉の領域でセーフティネット」、これはもう説明する必要がないと思います。それから、提案として、街の姿ですが、手入れがされ、空き家などが放置されていないということと、もう一つ、こういうところの提案としてよく、にぎわいという言葉が使われるのですが、にぎわいというと、ごみごみしていても人が集まっていればよいと理解されがちなので、非常に言葉を選んで提案しました。以上が提案です。
- ・区民ができること・すべきことということで、「学びなくして参加なし」、早稲田大学教授の卯月盛夫さんがおっしゃったことですし、宮台審議会委員も「ワークショップとは学びの場である」といったことをおっしゃっているところです。
- ・区に担ってもらいたいことでは、基本構想の規範性を担保するしくみを条例等で、条例でなくてもよいですが、定める。合意形成のルールを確立する。大変失礼な書き方かもしれませんが、行政能力・職員能力の向上をしていただきたい。あと、区民・その他と行政との役割分担についてきちんとルール、しくみをつくっていくということを書いています。以上が提案です。
- ・これとは別に、基本構想策定の進め方について、部会を2～3回傍聴できなかったことはありますが、ほぼ全部傍聴してきたと思うのですが、その進め方について、基本構想というのは、今までは、2、3年前までは、策定をして議決をするのが地方自治法で義務だったのですが、それがなくなったわけですけども、世田谷区は議決もするとのことですので、では、基本構想を策定する目的は何なのか、そういうことを徹底的に議論して区民に示していただきたいと思います。

- ・それから、今の審議会の議論をうかがっておりますと、公共的な方針として策定するとか、「わたしたち区民は」というような主語でなるべく書いていこうというようなことをおっしゃっていますので、もしそうだとするならば、それは審議会と議会だけで決めていただくことではないだろう、徹底的に区民の意見募集をして、場合によっては策定スケジュールを変更せざるを得なくなるかと思いますが、こういう話題は、区報特集号の区民意見の募集の中には何も出てきていなかったのですから、そこは議会の方も頑張って徹底して議論していただきたいと考えております。
- ・資料の裏側にもこのような提案があったのですが、時間がないのでやめておきます。どうもありがとうございました。

7 - トランジション世田谷茶沢会

図表II-17 トランジション世田谷茶沢会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 トランジション世田谷 茶沢会 【発表代表者】 浅輪 剛博</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「地域エネルギーシフトの達成」（エネルギーの効率利用・循環型） 「食の地産池消」 「修復型の公共事業」</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の省エネリフォーム、新設。 基準の設定、省エネ建築の評価、政策誘導 雇用の創出にもつながる ・ 太陽熱、地中熱の利用 ・ 再エネ施設などへの地域内からの出資を推進 ・ 空き家の活用をして、エネルギーシフトのワークショップ （シニア世代の経験・技術と子どもたちの環境教育も） ・ 区東部消費地での地域マルシェと世田谷そだち野菜とのマッチング

- ・世田谷でエネルギーシフトなどを主にやっている団体です。お手元に、前もって提出したものに色々具体的な政策提案が書いてあるのですが、今回は基本構想ということで、20年後のあるべき姿のビジョン的なことを、報告いたします。
- ・トランジションとは持続可能な社会に移行していくという意味で、今までの色々な環境活動、エコロジーというのがあったと思うのですが、それは基本は、汚染物質がどんどん出るのを抑えていこう、だけど全体的な社会や経済のあり方はそのままにして、汚染物質があまり出ない、環境によいものはたくさん広げて、例えば企業などの供給側の都合に合わせて、どんどん新しいニーズをつくっていくという感じで動いてきたと思うのですが、それだけでは持続可能な社会とはいえない。20年後に関しては、汚染物質が出ないというだけでなく、エネルギー問題というのが非常に強く出てくると思います。安くてよいものであれば、どこか遠くの世界から持ってきてよい、というわけにはいなくなってきて、ピークオイルとか、オイル、石油、原油の値段が上がってきたり、天然ガスもシェールガスなど出てきていますが、それにもいつか期限があるということで、エネルギー多消費のものをどんどん作りかえていく、トランジションしていくということが必要だと思います。
- ・単に汚染物質を規制していくというだけではなく、新たな視点として、地域の自立性、地域の中であるべく循環する。それぞれの地域が自主性を持って、われわれの地域のニーズはこういうものだからこういうものをつくりたい、地域の中の産業だけでできないものは、外とつながってやっていくというような、自主性というものをコンセプトに入れて20年後は進んでいけばよいと思っています。
- ・地域のニーズを見える化して、それを叶える工夫をそれぞれの地域独自にやっていくこと、ニーズを与えられるのではなく、よく有効需要と言いますが、ニーズはあるのだけれど福祉や環境などそれに対するお金を払えないということも、共同購入で前もって買いますというようなことをして、ニーズ側からつくっていく経済というものに、だんだんとトランジションしていけばよいと思っています。
- ・同じようなことですが、エコカーとか、省エネ家電などができることは非常によいことなのですが、必要以上にたくさんできて資源の無駄になりますので、耐久のよいものをさらにシェアして共同利用していくというような、カーシェアリングとか地域熱共同利用、日本では難しいと言われていますが、20年後にはこういうものがどんどんできていたらよいなと思っています。
- ・同じような形で、省エネもよく言われますが、我慢の節電というふうに使われていますが、そうではなく、だんだんエネルギーをシェアしたり、あるいは各家庭で行っているものも共同してシェアしていく。それから建物の断熱性を高めたり、パッシブハウスと言いますが、自然の色々な風や温度や太陽熱など、あるいは地中熱というものを利用していく。外からの影響からがちょっと守るというだけでなく、いろいろな自然の流れを生かしていくという環境共生型と言いますが、そういう建物にしていくというのがもっと省エネ、節電につながっていくと思います。
- ・今よくメガ・ソーラーというもので自然エネルギーに関して広がっていますが、それもよく外来資本が来たりして、その地域がコントロールされてしまうこともあると思うのですが、そうではなく、地域内の金融機関や市民が出資して、主体的にエネルギーの地産地消を行っていきたい。
- ・食のところで、オーガニックであまり化学物質を使っていない食品を日本中、世界中から集めて来て、体によいと言っているのですが、それも多大な燃料を使ったり、あるいはそれらの地域ではモノカルチャーと言いますが、一つの農産物だけをつくったりしているという形になると、それぞれの地域の土地の土壌の力がどんどんなくなっていってしまいますので、そういうことではなくて、それぞれの地域で色々な食べ物を揃えて、多様なものをつくることで土壌の耐久力、持続性も高まっていく。レジリエンスという言葉をとランジションという活動では使っているのですが、回復力というのでしょうか、それぞれが自主的・自立的に地域を保っていける形にしていければよいと思います。世田谷だと、世田谷育ちというのを今やっていますが、それがさらに広がっていき、地域的な消費・流通・生産、地域のすぐ近くの消費地のニーズから、その地域でできた産物をどんどん使っていくというふうにしていけばよいと思います。

- ・最後になりましたが、みどりを増やすということで、今までは記念植樹のようなものが多かったのですが、地域の多様性に根ざした植林、みどりを進めていければよいと思います。ちょっと早口になりましたが、以上です。

図表II-19 ネクスト20の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 ネクスト20 【発表代表者】 松田 宏</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿 区民が主体でつくるみんなの世田谷（区民） みどりと水と青い空、美しい景観を備える世田谷（住環境） 安全な暮らしを守り人にやさしい街世田谷（安全・安心） あらゆる世代が協働する世田谷（福祉・健康） あらゆる人が自己実現を求め、知的で文化的生活のできる世田谷（教育・文化） 楽しく安心して暮らし、憩える世田谷（経済・エネルギー） 区民のための区役所、区議会（行政）</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってほしいこと</p> <p>私たち「ネクスト20」が提案する「もう一つのせたがや基本構想」案の内容は配布資料で確認してもらう為ここでは詳細説明はいたしません。 提案説明したいことは区民だけで作成する基本構想案と審議会の構想との違いについてです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．現状認識による現在の問題点となった要因分析と将来構想の課題選択について。 2．20年後の世田谷像の理念と目指す方向性、特に具体的目標値を示すことについて。 3．世田谷らしさを盛り込むための視点を「世田谷の風土」を基盤として基本構想を検討することについて。 4．基本構想を作成するだけでなく、区民にいかに伝え、いかに理解させて区民自身に行動を起こしてもらうための広報方法について。

- ・松田です。私たちネクスト 20 は、審議会で検討している基本構想とは別に、もう一つの基本構想を検討しています。区民にとって重要な基本構想を審議会にお任せしてよいのか、という考えからです。そもそも、審議会が、行政が推し進めたいことについて外部のお墨つきをえるための一つ的手段として利用されていないだろうか、行政による責任転嫁の手段として使われていないだろうか、ということです。
- ・もう一つの基本構想、世田谷ビジョンの将来像、理念、目指す方向性、具体的目標等については、お手元に配布した世田谷ビジョンを読んで確認してください。説明する時間がないので省略します。
- ・ここでは、審議会で検討中の起草案との違いについて四つだけ説明します。

現状認識。世田谷区が今どんな問題になっているのか。この検証が深く進まないで、行政のマンネリ化や区議会の機能不全や制度疲労の弊害が表面化している原因は、いったい何なのか、ずっと突き詰めていくと、区民の行政任せ、区議会任せ、有識者任せということで、区民のお任せ主義にある。ここで区民の自立がなければ、20 年後の区政を描くことはできない、という現状認識です。他にもありますが省略します。

具体的目標値が審議会のところではありません。20 年後に検証しようと思っても、抽象的な目標ではできません。そこで、私たちの提案は具体的な目標値を定めて後で検証できる、ということです。単なる目標をつくるだけではなく、実現する覚悟を示すものでなければなりません。その辺が曖昧であることが気になったので提案します。

世田谷らしさとは何か。基本構想のベースになるのは、世田谷の風土に根ざすべきです。単なる基本構想をベースにするということは、地域風土に根ざす構想で、地域住民に根を張り、馴染んでいくことによって住民の精神構造に深く刻み込まれる、これが基本構想のベースにならなければならないと考えます。

基本構想をつくるのが目的ではありません。区民に伝え、区民が理解し、区民が行動できるようなしくみになっていなければなりません。そこで、簡単に言えば、一目で見てわかるわかりやすさということです。具体的に言えば、基本構想の解説ブックをつくり、27ヶ所の出張所・センターで区民の勉強会をして徹底させる。あるいは小・中学校の中で、基本構想のカリキュラムをつかって、小さい頃から世田谷の基本構想について学ぶ場を設けることが必要ではないかと考えます。
- ・最後に、これだけのことを5分間で説明はできません。できることならば、審議会委員に直接説明できる時間を設けていただきたいと思います。出来なければ、3月9日に三軒茶屋のキャロットタワーで基本構想のシンポジウムを開きますので、ぜひ、みなさんそれに参加してください。一人で持つ夢はただの夢で終わるかもしれないけれども、区民みんなで見る夢は現実となりますので。よろしくお願いします。

3. 発表

発表 では下記の通り 8 団体から発表があった。

図表II-21 発表 の参加者

番号	団体名または発表者名	提案概要
9	NPO 法人カプラー	地域の課題に区民が挑む「ビジネスが生まれるまち・せたがや」
10	喜多見ポンポコ会議	歴史、自然、農地、伝統行事などの大切さを共有し協力して支える仕組みを
11	世田谷おもちゃコンサルタント有志の会	現役世代が元気な区、ライフワークバランスの実現 地域のつながり強化
12	RRR プロジェクト	子ども・若者の社会参加、社会参画の推進とそのため地域の拠点の整備
13	世田谷トラストまちづくり大学同窓会	多世代が交流しながら、地域のつながりを強化・活性化させる コミュニティ・スクールを創る
14	一般社団法人日本土地資源協会	多世代の区民が支えあい、誰もが最後まで安心して住めるまち
15	基本構想を考える職員研究会	区民が住み続けたくなるような魅力あるまちへ

また、世田谷区基本構想審議会から、森岡清志会長、宮台真司会長職務代理、竹田昌弘委員、宇田川國一委員、上野章子委員、永井ふみ委員、松田洋委員、宮本恭子委員、風間ゆたか委員、上島よしもり委員の参加があり、発表終了後全体に対し、次頁の通り、コメントがあった。

図表II-22 発表 での委員からのコメント

竹田昌弘委員

- ・様々な観点から意見をいただいた。それぞれ審議会の議論の中でも活かしていきたい。

宮本恭子委員

- ・区民委員として参加しているが、自分自身が区民の意見を代弁するように進めていかないとならないと感じた。各提案が活かされるような基本構想にしたい。
- ・喜多見ポンポコ会議が言及したように、喜多見は多世代の交流があり、商店街とスーパーが共存しているなど、世田谷が目指すべき方向性を体現している。しかし、同地域は外環道の問題も抱えている。メインストリームの意見を鵜呑みにするだけではなく、区民自らが自分で考えることが大切だと感じた。

宮台真司委員

- ・「シェア」という概念が重要である。現在、シェアハウスは、私の研究室の学生のうち3分の1程度が住んでいるなど、非常に若者世代に波及している。現在、20代の約3分の1は「自分は結婚しない」もしくは「結婚できない」と考えている。このような中で、シェアハウスは、孤独に代わる共同生活の在り方であろう。また、一般社団法人日本土地資源協会の取り組みはこれらの動きを踏まえるとともに、いわゆる「終活」などのターミナルケアの議論も踏まえていることから興味深いと感じた。
- ・市民参加のように、知恵を共有してプロセスを通じて学んでいき、「我々感覚」を作っていくことが大切である。
- ・職員研究会のような動きもすばらしいと思う。ただ、「区民が住み続けたくなるまち」を作ることがあるが、「区民自らが住み続けたくなるまちにする取組」を行政職員が後押しすることも大切である。

各団体の発表内容の詳細は次頁以降の通りである。

図表II-23 NPO法人カプラーの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 NPO 法人カプラー 【発表代表者】 松村 拓也</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>地域の課題に区民が挑む「ビジネスが生まれるまち・せたがや」</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってほしいこと</p> <p>「ソーシャルビジネス」とは、「その目的の価値や魅力を誰もが判るように説明するビジネス」と私たちは考えます。せたがやビジネスリーグは、せたがやのまちで行われるソーシャルビジネスの新たな事例やアイデアを募り、学び（セミナー）、比較（コンテスト）、交流（フェア）、評価（アワード）の4つのイベントを通じてビジネスの地域デビューを促す取り組みで、世田谷区産業振興公社の事業として開催してまいりました。</p> <p>しかし、ビジネスとは、「営利・非営利」、「個人・団体」や「公・私」を問わず、目的の実現に取り組む活動の総称です。区内の様々な分野で、区民のアイデアや活動を募集する取り組みは、区民から見れば「起業チャレンジ」に他なりません。</p> <p>健康づくり、地域の絆、生涯現役、国際交流など、世田谷区には区民が地域の課題にチャレンジする機会がたくさんあります。ビジネスを産業分野に限定せず、地域のあらゆるチャレンジを「起業」と位置づけ、区民の参加や提案を募る取り組みに関する情報をせたがやビジネスリーグに一元化し、ビジネスを生み出す「せたがや方式」にしていきたいと思います！</p>

- ・私 NPO 法人カブラーの理事長の皆本と申します。本日、よろしくお願いいたします。今から説明する当 NPO の活動も含めて、説明は事務局長の松村からさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
- ・20 年後の世田谷が目指すべき姿について提案したいと思います。地域の課題に区民が挑むビジネスが生まれる街、世田谷になったらいいなと思います。今日ご紹介するのは、まずビジネスリーグという活動を世田谷区産業振興公社の事業として今やらせていただいています。
- ・こんな資料を置いておきましたので、ぜひご覧ください。こちらが前回のレポートで、これが今回のご案内、エントリー用紙で、締め切りは明々後日でまだ間に合いますので、みなさまご応募お待ちしております。
- ・ビジネスリーグというのは、年間を通して開催されるこうしたセミナー、コンテスト、フェア、アワードという一連のイベントです。セミナーで起業の勉強をちょっとしていただいて、コンテストで皆さんの案を募って、フェアで皆さんで交流し、今日よりも短い3分間プレゼンを皆でやって、そこで予選を勝ち抜いた方が最後決勝戦、アワードに進んで一等賞を決める。そんなイベントを今年3回目をこれからやるところです。
- ・このイベントは私共の方で勝手にソーシャルビジネスを定義させていただいて、この定義に基づいて提案を募っています。その定義というのは、何をやるかというよりもですね、こういった内容です。ソーシャルビジネス、つまり地域のためになるビジネスというのは、区民、地域に役立つビジネスなのか、あるいは区民、地域を必要とするビジネスなのか、あるいは役立つか必要とするかよく分からないけれども区民がときめく、世田谷が楽しくなる、そういうビジネスか、せめてそのどれかじゃないと何の役にも立っていないじゃないかみたいな、そういう考え方です
- ・実はそのビジネスという言葉は、ちょっと字が小さいんですけども、これは Wikipedia というインターネットの字を引きました。
- “ビジネスとは営利や非営利を問わず、また、組織形態を問わず、その事業目的を実現するための活動の総体をいう。したがって、ビジネスの主体者としては株式会社などのような営利企業だけでなく、NPO などの非営利活動法人や住民サービス提供などを行う行政組織等を含み、個人または法人組織などの事業体がそれぞれの事業目的の実現のために、人・物・金・情報などの諸資源を活用して行う活動全体を意味する。”
- つまりビジネスというのは目的実現のために busyness 忙しくすることなんです。ですから、その中のお金儲けしなければいけないものもあれば、みんなから税金もらってやっちゃおうというものもあれば、人さえ集まればなんとかなるというものも色々ある。この解釈は私はとても大切な考え方だなと思います。そこで、このビジネスリーグというのは、営利、非営利、個人、団体、プライベート、パブリック、それはどちらでもいいです。問題は今やっているのか、これからやろうと思っているのか、この2つはちょっとはっきり分けさせていただいて、皆さんのビジネスを募ります。
- ・これは、去年こんなセミナー、そして今まさに募集中です。そしてこれは去年の予選交流会です。ちょっとへんてこりんな人も混じっていますが、それとこれは決勝戦。この方が大賞をとりまして、ヤッターみたいなことになっています。
- ・今こんなことをご紹介したんですが、実はこういう考え方から見て今世田谷区ってどうなっているかというですね、こういう状態です。これはインターネットからちょっと拾わせていただいた情報で、全部網羅できてはいないですけど、今こんな助成事業が色々あります。つまりですね、役所の組織に準じて色んな事業がある。今日の発表会も私共色々分類されているんですけど、この分類と我々がやろうとしている、あるいは考えていることってあまり一致していないんですね。なので、色々あるだろうけれども、それを募集して区民の意見を募るといのは、たとえば私たちみたいな者がそういう役割を担ったらどうかと、というようなことをご提案。時間がなくなってしまいました。どうもありがとうございました。

図表II-25 喜多見ポンポコ会議の応募用紙

提案者	<p>【提案者名】 団体名 喜多見ポンポコ会議</p> <p>【発表代表者】 江崎 美枝子</p>
提案内容	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>私たちが活動している喜多見では、春はウグイスが鳴き、夏はヒグラシ、秋は虫の音が鳴り響き、子ども達は畑の間の土の道を歩き、神社の境内で遊び、大人達は無人スタンドで立ち話をし、老若男女が楽しみにしている伝統行事が続けられています。道は狭く、曲がっていて、互いに「お先にどうぞ」「ありがとう」と譲り合い、日々地域の絆を感じることができます。20年後もそのままであってほしいです。</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区民・事業者・区がそれぞれに、歴史、自然、農地、伝統行事などの大切さを共有し、良さを伝え、意識を高め、協力し、支える仕組みを作る。 ・ 区はあくまでも客観的・公正・中立的な情報提供に努める。区民は冷静に事実を見極め考える。さらに区はそうした区民を育て、支える仕組みを作る。

- ・喜多見ボンボコ会議の江崎です。よろしくお願いいたします。私たちの会は2000年4月、13年近く前に発足して喜多見の地で活動を続けています。
- ・まず、20年後の世田谷区が目指すべき姿ということです。世田谷区は地域ごとに個性があります。おしゃれな町があったり、買い物客でにぎわう町があったり、歴史が息づく町があったり、都心に近いながらも自然が残っている町があったり、そのような中で、私たちが活動している喜多見についてお話ししたいと思います。
- ・これは喜多見の慶元寺にある江戸太郎さんの銅像です。喜多見は江戸という地名の元となった江戸氏が今の皇居のあたりから移り住んだところです。この慶元寺も元は今の宮内庁のあたりにあって、室町時代の中頃に江戸氏と共に移転してきました。江戸氏はその後お家断絶ということになってしまったんですが、家臣の子孫たちは今も喜多見の地で農家を営んでいます。これは河野さんという方のお宅です。河野さんは元は愛媛の地にあつて、江戸氏と河野氏が壇ノ浦の合戦で共に戦ったのが縁で、喜多見には河野さんが、愛媛には江戸さんという方が今も現存しているという壮大な歴史の中にあります。
- ・また、喜多見には今では貴重となった湯花神事という行事とか十夜法会といった伝統的な行事が住民によって粛々と続けられています。
- ・子どもたちは神社の境内で遊び、小学校まで10分くらいで行かれるところをこういった畑の間の土の道で時にはピワの実を食べたり、トカゲの卵を見つけたりしながら1時間半もかけて行くこともあるようです。大人たちは野菜の無人スタンドで世間話に花を咲かせたり、春にはウグイスが鳴いて、夏にはヒグラシ、秋には虫の音が響き渡るということです。そして道は狭く曲がっていて、車が行き来するのも大変です。しかしだからこそ、「お先にどうぞ」「ありがとう」といった声を掛け合う、世田谷区が求めるような地域の絆を日々感じることが出来ます。
- ・私たちはこのような喜多見の町が好きで、20年後もこのままであってほしいと願っています。
- ・しかし、私たちの会が発足するきっかけとなった外環が今、喜多見の町を襲い始めています。家臣の子孫の方々が大切にしてきた農地を奪い始めています。
- ・私は必要性から議論するという国土交通省と東京都が主催する、日本初のPIといわれるPI協議会に協議員として参加してきました。国は渋滞緩和、環境改善、経済効果があると主張していますが、既設の埼玉区間について調べると異なる実態が明らかになって、その事実を訴え続けてきました。しかし、相変わらず国は非常にまぎらわしい不適切な表現で情報を提供し続けています。
- ・そして、区民や区は何をすべきか、です。世田谷区は地域ごとに色々な個性があります。区民も、そこで仕事をする事業者も、区も、その地域の良さを見直して、大切にすべきなのは一体何かを考えると、頭の中で理解するだけではなくて、手足を動かして支えるような仕組みを作りましょう。外環道に関わってわかったのは、みんながあまりにもいい加減な情報の中にあるということです。区はあくまでも客観的で公正で中立的な情報提供に努めていただきたいと思います。区民は行政やマスコミが伝えることは本当なのかと、冷静に事実を見極め考えましょう。さらに区は、自分の足で歩いて、自分の目で見て考えることができる区民を育て、支える仕組みを作っていただきたいと思います。発表は以上です。ありがとうございました。

図表II-27 世田谷おもちゃコンサルタント有志の会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 世田谷おもちゃコンサルタント有志の会 【発表代表者】 鈴木 律子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現役世代が元気な区を目指す ・ ライフワークバランスの実現 ・ 地域でのつながりの強化 <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってもらいたいこと</p> <p>【区民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大人のためのイベントを開催 ・ 子ども向けイベントと大人向けイベントの連携 ・ 既にあるイベント同士、関係各所との連携 <p>【区に担ってもらいたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区民の日、大人のための公休日の制定 ・ イベント開催の場所を提供 ・ イベント開催にあたり補助金の支給 ・ 専門分野を持った区民の派遣 <p>(子どもが参加するイベントには、保育士を派遣する等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区の施設を利用する際の物販や営業の緩和

- ・世田谷おもちゃコンサルタント有志の会です。私たちはNPO 法人グッド・トイ委員会に在籍しております。このグッド・トイ委員会はコミュニケーションツールとしてのおもちゃの力に着目し、おもちゃと遊びによる多世代交流を目的にさまざまな活動を行っているNPO 法人です。今回、世田谷区で活動しているおもちゃコンサルタントと世田谷区がより協力し合える環境を作りたいという思いから発表会に参加させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・それでは発表に移らせていただきます。現在の日本は少子高齢化など多くの問題に直面していて暗い時代であるといえます。このような時代には、現役世代が元気な街が必要であると私たちは考えます。この現役世代が元気な街とは大人がエンジンとなり遊び心を持つ街のことです。このような街にすることで、暗い時代も明るくなるのではないかと考えます。そこで、20年後の世田谷区が目指すべき姿として、「大人が創造性を育めるようなライフワークバランスの実現」、「現役世代が元気な区」、「現役世代の地域でのつながり」の3点を提案します。
- ・地域でのつながりの例としては、パワーポイントのこのようなものが挙げられます。唐津くんちという唐津市で行われているお祭りやロンドンのパブです。これらのように世代を超えたつながりといったようなものが形成されるイベントを区民が開催することで、私たちが提案する現役世代が元気な街により近づいていくと思います。これが私たち区民にできることではないかと考えます。
- ・ほかにも、子ども向けイベントと大人向けイベントの連携を図ることで、子どもがいる保護者も気軽に参加することができます。それから既存のイベント同士が連携することにより世田谷区に多くの人呼び込めます。私たちおもちゃコンサルタントもおもちゃ広場の設置や運営といったことによる協力を惜しみません。
- ・区にさせていただきたいこととしては、区に住む方々に気軽にイベントに参加してもらうために、例えば区民の日など大人のための公休日の制定が挙げられます。ほかにも、イベント全般においてイベント開催の場所の提供、およびイベント開催の補助金の支給、子どもの参加するイベントに保育士を派遣するなどといった専門分野をもった区民の派遣を世田谷区に担っていただきたいと思います。また、非営利イベントでも運営資金は必要という点から、区の施設を利用する際の入場料や物販営業の緩和も取り計らっていただきたく存じます。
- ・世田谷区の発展には区民のつながりが重要です。世田谷区を誇りに思えるよう私たち区民も努力していきます。以上で発表を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

図表II-29 RRRプロジェクトの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 RRR プロジェクト 【発表代表者】 櫻井 龍太郎</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども・若者の社会参加、社会参画の推進とそのための地域拠点の整備 <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>【区民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域拠点の運営 ・ 現場における子ども・若者支援 <p>【区に担ってほしいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域拠点の確保 ・ 子ども・若者支援の行いやすい条例、計画の制定 ・ 継続的に子ども・若者支援を行っていくための資金提供

- ・それではRRRプロジェクトから、子ども・若者の社会参加、社会参画の推進とそのための地域拠点の整備という提案をしたいと思います。私はRRRプロジェクト代表の櫻井と申します。2人が副代表の藤本と大島です。どうかよろしく願いいたします。私共は全員21歳の若者、大学生でして、ぜひ若者の意見も聞いていただければなと思います。
- ・我々は20年後世田谷区が若者と住民が地域を担いやすい街となってほしいと願っており、そのためには子ども・若者のときから社会参画が必要だと考えています。普段、RRRプロジェクトでは中高生の地域活動支援とそれから推進のために活動しております。そのような私たちからしてみても、現在の子ども・若者の状況は深刻です。自分に自信がない。社会と自分は関係がない。将来が不安。いじめられている。学校に行きたくない。こういった問題に特效薬はなく、さまざまな対策が必要だと思います。その一つとして、社会参加、参画が挙げられます。これらがもたらす影響として自己実現によって自分に自信がもてるというのがあります。また、社会や地域と子ども、若者の間に関係性が生まれます。学校などとは違った、地域に場所を作ることもできます。将来を考えるきっかけを作ることもできます。このほかにも社会参加、参画にはたくさんの可能性があると思います。この4つそれぞれ事例や理由など詳しく言っていきたいところですが、時間の関係で省略いたします。
- ・では、具体的にですね、どのような支援が必要か、ということの説明したいと思います。まず、概念として、一番上にあります、子ども・若者がもつ能力や自信、可能性を發揮して、それを実現できる機会を作る、というのを行っていかねばならないかなと思っております。そして、このためにまず前提条件で例えば一つ、建物があったとして、そこは子ども・若者が利用者の中心であって、かつ誰でもいつでも来ることができる。若者でなくても来ることができる場所というのがあったとします。そこが地域の拠点という風になればですね、その地域の拠点として地域にいろんな活動をしている人々が集まって、子どもや若者、さらに地域の人々というのが多代的に交流をすることができるきっかけになるかと思えます。そしてこの場所にですね、子ども・若者による運営委員会や子ども・若者が作るイベントといったことをすることによって、自己実現を図って、子どもたち・若者の自己肯定感を向上させることにつながるのではないかなと思います。
- ・続いてですね、子ども・若者の施設といっても現在世田谷区においても保育園も足りなければ老人施設も足りないという状況であります。そのような中で、子ども・若者向けのものを作るのはなかなか難しいことかとは思いますが、そこに一緒に例えば保育園や老人施設も複合で入れたとします。そうすれば、将来保育士になりたいと介護士になりたいといった子どもや若者がその場でボランティアの担い手となることができます。これも、地域の拠点であれば相乗効果として施設外の保育園とか老人施設へのボランティアの幅を広げていくことができます。そういったことが、地域の担い手を育てることもでき、かつキャリア支援にもなっていくのではないかなと思います。
- ・続いてですね、専門家によるキャリア支援やキャリアカウンセリングといった専門家を派遣することによって、そういった支援というのもできるのではないかなと思います。
- ・居場所としての需要ですが、1階にフリースペースがある池之上青少年会館来場者数はこのようになっており、中高生に関しては一日あたり約50人、月あたり約1,500人ととても多いです。さらに我々が二子玉川の商店街で空き店舗を使って運営しています駄菓子屋兼フリースペース「おかしモ」。たった4畳半しかないところに時には20人くらい集まるがあります。また、中高生がボランティアとして手伝ってくれることもあります。このようなことから居場所としての需要は十分にあると思います。我々はこれに関するところでさまざまな活動をしてきました。スウェーデンに行って若者支援の勉強もしてきました。
- ・しかしながら、区に担っていただきたいこともたくさんあります。まず一つ目に、地域の拠点の確保です。二つ目に、子ども・若者支援の行いやすい条例、計画の制定、策定です。三つ目に、継続的に子ども・若者支援を行っていくうえでの資金提供です。この面は区に本当に担っていただきたいくて、どうしても資金面は困ってしまうことが多いです。これから未来を作っていく子ども・若者のために使っていただけたらなと思います。以上でRRRプロジェクトの提案は終了です。ありがとうございました。

図表II-31 世田谷トラストまちづくり大学同窓会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 世田谷トラストまちづくり大学同窓会 【発表代表者】 笠井 恵美</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>多世代が交流しながら、地域のつながりを強化、活性化させる。コミュニティ・スクールを創る</p> <p>この案は、先日、20周年を迎えた世田谷まちづくりファンドのイベントで、優秀賞を受賞致しましたので、こちらにも応募させていただきました。</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってほしいこと</p> <p>廃校を無料で開放し、多世代が交流出来る場として、屋上にはソーラーシステムを設置したコミュニティ・スクールを創ります。その中には、学食や託児所、介護のデイケア施設も創ります。年会費5千円で、会員は一年間学び放題。学食では、都内や区内の食材を地産地消し、食の安全に気を使います。教えるというのではなく、伝えたい事が、誰にでもあります。世代を越えて、教え、学び合える場が、コミュニティ・スクールです。学校には、学校の機能があり、地域とのつながりが深いものです。そこを再生し、活性化することが大切だと思います。</p>

- ・私は今回、多世代交流、地域のつながり、地域活性化、魅力維持などの部門に応募させていただきました。笠井と申します。どうぞよろしく願いいたします。私は普段世田谷トラストまちづくり大学同窓会の一員として世田谷でボランティア活動しております。今日も何人が傍聴しています。この世田谷トラストまちづくり大学というのをちょっと説明させていただきますと、世田谷の人と街と自然について学べる市民大学・市民講座というような感じのもので、私も受講しました。私は世田谷に生まれて世田谷に育つてもう半世紀くらいになるんですけども、それでも知らなかったこととかいっぱいありまして、この市民講座、世田谷トラストまちづくり大学でとてもいい勉強をさせていただきます、人にも恵まれて、同窓会として楽しく日々活動させていただいております。
- ・それで、世田谷のまちづくりファンドの助成も受けまして、今活動もさせていただいております。その受講生が活動しております同窓会では、集まったりして月例会をしております。やはりその方たちは凄く、今もそうなんですけど、話を聞いていて、みなさん凄く士気があって、見識がおありで、私なんか今日も勉強させていただいております。そういう方が世田谷には凄く多いです。それが世田谷の特徴じゃないかなと思うんです。ですから、みんなで知識とか情報とかを共有するような箱、前の方たちが言っていたように居場所、箱があれば、もっともっと交流が盛んに、世代交流が盛んに行われると思うんです。
- ・それで、廃校というものを利用して、やりたいなと思ひまして。廃校を自由に使わせていただけるように、させていただけたらと思ひます。廃校を無料で開放して、多世代が交流できる場として、屋上にはソーラーシステムを設置したもので電力とか自給したいと思ひます。そういったコミュニティ・スクールを作って、その中に託児所や介護のデイケアや施設とかも作りまして、学食とかも食べられるようにします。
- ・年会費 5,000 円で、会員は 1 年間そこで学び放題学べるというシステムです。ただで、ただに近いような状態で、学べるシステムというのを構築したいという風に思ひます。
- ・それが地域の活性化と、区民の、地域住民の幸せにつながるし、情報を共有することもできると思ひます。学食では、区内や都内の食材を地産地消して食の安全を考えます。教えるというのではなく、たくさんのキャリアをお持ちの人ですから、今発表された皆さんにもぜひ先生になっていただいて、講師になっていただいて、教えていただければなと思うぐらいです。
- ・世代を超えて教え学び合える場がコミュニティ・スクールです。この案は先日 20 周年を迎えました世田谷まちづくりファンドのイベントで、これが原案なんですけれども、優秀賞を受賞しましたので、一票を入れていただいた方にも報おうと思ひまして、こちらにも応募させていただきました。
- ・学校というのは学校としての機能がいろいろありますよね。図書館とか、体育館とか、そういうものを活性化するとコンサートもできますし、図書館といえば今ドイツでは「道具の図書館」というのがあって、道具を貸したり借りたりできるようなシステムもあるというので、そういうことにも使えると思ひます。今日はご静聴ありがとうございました。

図表II-33 一般社団法人日本土地資源協会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 一般社団法人 日本土地資源協会 【発表代表者】 田名 夢子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>多世代の区民が支えあい、誰もが最後まで安心して住めるまち</p> <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>私は住み慣れた自宅以最期まで安心して生活し、そこで看取られたいと願っています。しかし、老朽化した家のままでは不安があり、改築を考えても資金など難しい問題が沢山あります。</p> <p>我家は親の代から100坪余の敷地内に、自宅に隣接してワンルーム6部屋のアパートがあり、家族を含めいつも10人余が暮らしていました。そこで、新たな住まいとしては、家族2人と共に、一人暮らしの高齢者や、一人で仕事と子育てを頑張っているシングルマザー、共同生活に関心のある若者など、10人程が共に生活をする多世代型シェアハウスを作り、合わせて地域の方々にも利用して頂ける食堂と、子育てサロン・ミニデイサービスのできる集会室を作りたいと考えました。</p> <p>上記の願いが実現したなら過密都市での住宅不足や空家利用の問題、一人住まいの不安、そして終末期在宅ケアの推進などが一挙に解決される一例になるのではないのでしょうか。そのために、日本土地資源協会を設立し、私の後もそのまま利用、活用して頂けるようにしたいと思っています。</p>

- ・はじめまして。私は生まれ育った砧町の住み慣れた自宅で最後まで安心して生活し、そこで看取られたいと願っております。しかし、老朽化した家のままでは不安があり、改築を考えても資金など難しい問題がたくさんあります。この課題解決のために数年間、さまざまな高齢者施設などを調べ見学してきました。また、安心して看取ってもらうためには、医師、または看護師、介護士に常駐してもらえないかと考えてもきました。でも、医療福祉関連に関わるのは非常に難しいです。最近の流れは終末期においても在宅ケアが推進され、最期まで自宅での訪問診療、訪問看護、訪問介護が充実しつつあります。なので、そのことを意識した間取りなどを考えれば心配なく自宅で終末期を迎えることができるはずです。
- ・2年ほど前から近隣の民生委員などの方々の協力を得て、砧ほほえみ会を作り、アパートの2部屋でお母さんのための子育てサロンとお元気な高齢者のためのミニデイサービスをしています。場を提供することで多くの方に喜んでいただけますので、今後も続けたいと思っています。
- ・我が家は親の代から100坪あまりの敷地内に自宅に隣接して1ルーム6部屋のアパートがあり、家族を含めいつも10人あまりが暮らしていました。そこで、新たな住まいとしては家族2人とともに、一人暮らしの高齢者や一人で仕事や子育てをがんばっているシングルマザー、共同生活に関心のある若者など、10人ほどが共に生活をする多世代型シェアハウス笑恵館を作りたいと思います。
- ・上記の願いが実現しましたら、過密都市での住宅不足や空き部屋・空き家利用の問題、一人住まいの不安、そして終末期住宅ケアの推進などが一挙に解決される一例になるのではないのでしょうか。そして、この願いが実現するなら、土地や建物を子どもに相続するのではなく、私の後もそのまま利用活用していただけるようにしたいと思っています。
- ・という田名さんと昨年5月に会いまして、お一人の願いから実は20年後の世田谷区が目指すべき姿が見えたような気がしています。それが、多世代の区民が支えあい、誰もが最期まで安心して住める街です。肝心なのは、この誰もが最期までというところがとても大切なところです。実現に向けて区民ができること、これはまさに今、田名さんが申し上げた、まず地域と関わっていこう、それから多世代と一緒に住んじゃおう、そしてご自分のお宅ですけど住宅をもっともっと活用しよう。これらは役所がやることではなく、区民がやることだと考えています。
- ・まさにここで眠れる資源、自宅と書きましたが、先ほどまでに学校とかいろいろなお話が出ていますけれども、世田谷区にはいっぱい自宅が眠っております。この自宅を開放し、それから皆で使い、さらにもっと活用していこう、というのが田名さんがお話した笑恵館、「笑いを恵む館」という名前にしたんですけど、言い換えれば永住型のシェアハウスです。これを実現するために、これをサポートしていくためにですね、この事業、それから運営、そしてこれを維持していく、先ほど田名さんは自分が死んだ後もこれを使い続けてほしいというために、これは法人を作ろうということで、日本土地資源協会という土地の所有者を支援する仕組みを作りました。
- ・最終的には公益法人を目指しまして、資産としての維持・保有が困難な土地所有者の方たちからいずれはもう土地を譲り受けて土地を資源として最大限活用していこうと考えています。ですから、最終的には自分たちが土地の所有者になって、皆で法人を作って、それで土地の維持をやっていこうと考えます。
- ・最後に、区に担ってもらいたいことは、さっき言い切れなかったので、今日はここまでしておきます。お話したいことはいっぱいありますが、ただお知りいただきたいのは区民がこんなことも始めていますということをご報告させていただきました。田名夢子さんと松村でした。日本土地資源協会よろしく願いいたします。以上です。

図表II-35 基本構想を考える職員研究会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 基本構想を考える職員研究会 【発表代表者】 伊藤 祐二</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>区民が住み続けたいくなるような魅力のあるまちへ</p> <p>世田谷区をより良くしようとする区民の主体的な活動を区が支え、今後も区民が住み続けたいくなるような魅力的で持続可能な活力に溢れるまちへ発展させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティの必要性の再認識 ・ 行政主体のまちづくりの限界 ・ 魅力的なまちづくりに向けて区民自らが主役になる ・ 区は最強の脇役としてのフォロワーを目指す <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>【政策の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「区民が主役」基金の創設 区民からの寄附金を原資に、区民が実施する主体的な活動の支援 ・ 「区民が主役」会議の設置 区民目線の問題提起、区議会との調整、基金の配分等 ・ 区政や地域活動への参加の情報提供・モデル提示 ・ 各まちづくり拠点にツイッターアカウントの設置 仕事や病気等で外出できない方も気軽に参加できるよう配慮 ・ 区民活動場所の提供 活動自慢や楽しさ自慢の大会実施支援 ・ 各種 PR・啓発活動 冊子「地域活動のススメ」製作、マスコットキャラクター作成等

- ・世田谷区の職員でやっております、基本構想を考える職員研究会の3班の代表の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。私たちは基本構想の審議会を傍聴している若手職員ですけれども、そちらの中で、第1部会から第3部会で共通のテーマになっている地域コミュニティの観点からアプローチして今回の提案をすることにしました。タイトルが、「区民が住み続けたいような魅力のあるまちへ」ということで、世田谷区が魅力ある街にこのまま続けていくためには、区に転入される方もいらっしゃると思うのですけれども、この方たちが、区民が主体的にやらなければならないことがあまりにもハードルが高すぎると、なかなか世田谷区に行くといろいろやらされるらしいよ、という話になってしまうかもしれないということもあって、あまりハードルを上げずに、持続可能な形で、できればゆるく楽しいような形で、何か提案できないかなということ、そういったことをまとめたのが大きなポイントになります。
- ・続いて、とある区民の方の会話を皆さんにちょっと聞いていただきたいと思います。では、とある区民の会話です。
 「東日本大震災があった後さ、地域コミュニティが薄くてもいいやと思っていた現代社会だけさ、いるよね、地域とのつながりってさ。助け合えるっていいじゃない。で、よく見てみたら、何この孤独死とか、いじめとか、不登校とか、ひきこもりとかって暗くね。」
 「最近、近所の人とか話していないよね。子どもの声がうるさいとか、ゴミの捨て方とかそのことで揉め事があったりすることをよく見たり、聞いたりするよね。みんなで仲良くすれば解決できるのに、どっかにまかせっきりになっていない。住みづらくなったよね。」
 「今後は区にまかせっきりじゃなくて、自分たちで住みやすい街にしていこうよ。俺たちなら、区だけでやるよりももっと魅力のある世田谷にできるよね。そのためには皆で世田谷にいいこと考えようぜ。自由に、楽しく、無理なく続けられるような感じで。」
- ・このような区民の会話の背景を踏まえて、目標の背景を述べたいと思います。地域コミュニティの必要性と再認識が挙げられます。東日本大震災を契機に気がついた地域とのつながりの大切さを魅力的なまちづくりのために最大限に引き出し、地域を愛する区民のパワーにより、自由に楽しく持続可能な形で住民たちと主体的に解決できるようにする必要があると考えます。
- ・もう一つは行政主体のまちづくりの限界です。少子高齢化の影響により、人口減少と現役世代の負担がさらに増加する見込みがあり、限りある税財源のなかで魅力的な街を維持しつつ、さらに発展するために区民自らができることをやる必要があると考えます。
- ・以上の背景から2つの目標を設定しました。1つは「魅力的なまちづくりに向けて区民自らが主役になる」です。これは行政にまかせっきりにならない自由な発想で魅力的なまちづくりに向けて世田谷区への愛着を最大限に発揮し、身近な地域で課題を解決できる体制を作ることです。
- ・2つ目は最強の脇役としてのフォロワーです。区は区民の自主的な活動を支援し、区民と共に魅力的で持続可能な活力にあふれる街を発展させる責務を有するものとし、区民に信頼される最強のフォロワーを目指します。
- ・これらの目標を踏まえまして、私たちは5つの重点施策を提案させていただいております。1つ目は「区民が主役」基金の創設です。区民からの寄付金を原資に、区民が実施する主体的な活動の支援を提案しております。続きまして、「区民が主役」会議の設置です。区民目線の問題提起、区議会との調整、基金の配分等が必要です。続きまして、区政や地域活動への参加の情報提供やモデル提示です。4つ目には、各まちづくり拠点にツイッターアカウントの設置をします。5番目としては、各PR活動を充実させていければと思っております。
- ・実行力を持つための推進体制として、区民の方では区民決議による計画策定、行政側では行政計画への反映、事業者の方では地域貢献計画策定などをして実行力をもたしていきたいな、という風に考えております。以上になります。ご静聴ありがとうございました。

4. 発表

発表 では下記の通り 8 団体から発表があった。

図表II-37 発表 の参加者

番号	団体名または代表者名	提案概要
16	劇団・世田谷かみしばい	災害時水供給タンク、広域避難所への誘導デザインの導入
17	日本大学文理学部後藤ゼミナール	地域資源の発掘と共有化 異質多様な人々をつなぐ居場所の創出 共生社会の実質化
18	日本大学文理学部世田谷スタディーズ	学びでつなげる「共育」環境の創造と地域連帯感の創出
19	NPO 法人玉川まちづくりハウス	コミュニティの中に様々なコモンズを生み出すことにより、近隣の自治を実現
20	世田谷福祉 100 人委員会	区民、事業者、NPO 等の政策立案・評価への参画による真の区民参加型コミュニティの実現
21	わいわいコミュニティ・たまがわ	誰にでも居場所がある寛容なまちをつくること 人と人との顔が見える関係作りの拠点
22	区民ワークショップ 19 班	ワークショップでの提案内容(コミュニティ・環境)

また、世田谷区基本構想審議会から、森岡清志会長、宮台真司会長職務代理、小林正美委員、竹田昌弘委員、森田明美委員、宮田春美委員、上野章子委員、永井ふみ委員、松田洋委員、宮本恭子委員、上島よしもり委員、桜井純子委員、田中優子委員の参加があり、発表終了後全体に対し、次頁の通り、コメントがあった。

図表II-38 発表 での委員からのコメント

森田明美委員

- ・ 現実に出会う場、ITを使った出会いの場など、出会いや交流する場を重視する意見が多いと感じた。

松田洋委員

- ・ 今回の基本構想は20年間の構想であるため具体的なハウ（how）の部分までは落としこめていないが、今後検討する10年の施策大綱の土台となるものである。今日の皆さんの意見をどのように集約して実現していくかという方法論を基本構想にどう位置づけていくかを、今後の審議会で考えて生きたい。
- ・ 参加型民主主義に関する意見がいくつか見られたが、提案されているような区民が参加する会議体を基本構想に位置づけることが必要である。
- ・ 今日頂いたような区民の意見を区政に反映していくために、公平な立場で区政の実績をチェックする機能が必要であると思う。

森岡清志会長

- ・ 第二セッションで発言すべきだったが、21歳の3人の若者や、日本大学の二つのグループの方々など、若い方々が参加してくださったことに感謝したい。
- ・ 昨年のワールドカフェに参加していただいたグループの方の中で、特に充実した提案をされていたグループに参加をお願いしたが、とてもよい発表だった。なお、その中で提案されている三つのSocial Networkのうち、Structural Social Networkは結合性なのでBonding Social Network、Relational Social Networkは人をつなぐということなので、Bridging Social Networkとしたほうが、意図が伝わるだろう。

各団体の発表内容の詳細は次頁以降の通りである。

図表II-39 劇団・世田谷かみしばいの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 劇団・世田谷かみしばい 【発表代表者】 小川 正徳</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「誰もが安心して住める災害に強いまちづくり」</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってほしいこと</p> <p>災害時に水の給水が簡単に出来る50リットル入Qタンクの導入</p> <p>災害時に広域避難場所へ逃げる道路への誘導デザインの導入</p>

・これから提案する2つの物語は区内の小学校で紙芝居を通じてよく上映しています。1つ目は「Qタンク」という日本ではほとんど導入されておりませんがイギリスで生まれた給水用タンクの物語です。2つ目は世田谷で生まれた「避難場所の誘導デザイン」の話です。これからこの2つの話をしたいと思います。よろしくお願ひします。。

(紙芝居)

(ナレーター) デザインのちから。

(女性) クンタ、学校へ水汲みにいっておくれ。

(クンタ) わかった、いってくるよ。

(ナレーター) ここは西アフリカ、ガーナの田舎です。北にはサハラ砂漠が控えています。雨季と乾季があって1月は水に困る乾季なのです。子供たちはみんな水汲みの手伝いにやってきました。

(子供) ほら、次はクンタの番だ

(ナレーター) 10リットルの水を頭に載せると、今来た5キロの道を帰っていきます。クンタは毎日この重労働を続けていました。

(子供) クンタ、すごいニュースだよ。

(クンタ) 何があったの。

(子供) 「Qタンク」という不思議なドーナツみたいなポリタンクが来るぞ。

(クンタ) 何をするタンクなの。

(子供) 水を運ぶんだよ。それがあればらくらく水を運べるぞ。

(ナレーター) クンタはよくわかりませんが、その不思議なタンクにわくわくする予感を感じていました。

(クンタ) わあ、ドーナツだよ。

(子供) この大きなタンクに水をいっぱい入れて引っ張ればいいんだよ。今日はみんなで水汲みだ。

(ナレーター) 家族総出の水汲みでした。こんなのは初めてです。長い道のりもあっという間につきました。水いっぱい入れると、なんと50リットルも入ります。小さいタンクの5倍です。満タンにしてロープをみんなで引きました。なんとQタンクの軽いことか。

(クンタ) やったー。

(ナレーター) クンタは思わず叫んでいました。

(男) 火事だ、火事だ火事だ。非常口へ逃げるんだ。

(ナレーター) これは小学校の避難訓練です。非常口のデザインを「逃げる人のピトグラム」といいます。このデザインは日本人、それも世田谷の人が考えたデザインが世界のマークになりました。1980年、日本の公募入選した作品です。最終案はこれに手を入れてシャープなイメージになったこの作品です。国際舞台に出てみると、ロシア案が決まりかけていました。日本は懸命な巻き返しをはかり、とうとう最終審査を通過して世界の国際マークになったのです。逃げる人のピトグラムは外へ出るとそこから先はわかりません。どこへ逃げればいいのか避難場所へ誘導する新しいデザインです。杉並第6小学校へ通う主な道路にはこの避難場所への誘導デザインがつけられています。これがあれば、誰が見ても避難場所へ逃げられますよね。おしまい。

・だいぶ短縮しましたが、この2つの提案をさせていただきたいと思います。Qタンクは非常事態の水運びにはすごく有力な方法だと思いますし、この「逃げる」誘導デザインは、外に逃げる誘導がないんですね。世田谷区の一部にはあるかもしれませんが、きわめて整備されていない状況だと思いますので、是非実現していただきたいと思います。以上で終わります。ありがとうございました。

図表II-41 日本大学文理学部後藤ゼミナールの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 日本大学文理学部社会学科・後藤ゼミナール有志グループ 【発表代表者】 堀 響一郎</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>地域資源（ヒト・コト・モノ）の発掘と共有化 異質多様な人々をつなぐ「居場所」の創出 共生社会の実質化 他自治体のモデルとなる取り組みの積み重ねを通して</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってもらいたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の発掘と新たな価値の付与／創造 ・諸資源のネットワークの形成と有効活用法の考案 ・「地域共生の家」の抱える問題点の解消 ・区内の大学・大学生の相互連携による社会実験の試み <p>その他</p>

- ・こんにちは。私たちは、日本大学文理学部社会学科後藤ゼミナール有志グループです。私たち後藤ゼミナールは、東京をフィールドにビジュアル調査法を用いて見えにくい社会のプロセスと構造を可視化、目に見えるようにし、可知化、それを言葉に換えて表現する研究に取り組んでいます。
- ・主な活動は1994年度から継続している“写真で語る：「東京」の社会学”プロジェクトです。東京や東京人が映りこんでいる一枚の写真から小さな物語像を見出し、フィールドワークを行って社会的に分析し、毎年20前後の作品を作り上げて発表しています。このメインプロジェクトに加えて、2005年からは「世田谷、再発見・新発見プロジェクト」、2008年からは「東京ドキュメンタリープロジェクト」、2010年からは「民・学・官」の連携と協働による下高井戸・桜上水のまちづくり活動にも取り組んでいます。2011年度からは、日本大学文理学部の最寄り駅である京王線桜上水駅、京王線と東急世田谷線の下高井戸駅周辺の地域の「まちなか」の社会的な事象を掘り起こして、ドキュメンタリー映像を製作し発表しています。これらのプロジェクトを通じて、大学のある下高井戸・桜上水地区が、20年後の世田谷区の在るべき姿を考える上でのモデルになるのではないかと考えました。キーワードは「共生社会への実質化」です。
- ・2011年度には、3つのドキュメンタリー作品を制作しました。1つ目は「しMOTAかいど」。MOTAは、精神障害を患っている方々の地域での暮らしを支える拠点として、2002年に設立された施設です。スタッフと利用者が共同で沖縄の食材を販売する店も商店街に出し、運営しています。それだけでなく、施設と店のある下高井戸商店街の活動にも深く関わっています。2つ目は「しもたか音楽祭」。下高井戸商店街振興組合が主催して毎年11月にまちをあげて音楽祭が開催されます。地元の小中高校や大学だけでなく、「しもたかフィル」をはじめとする市民の音楽団体などによる、多彩な演奏が行われます。大勢の前で演奏し交流することを楽しんでおり、地域の方々も楽しみにしています。3つ目は「下高井戸シネマ」。下高井戸の地で50年以上愛され続けている映画館です。ロードショーではなく、シネマが選んだ名画を流すので、映画ファンの常連が多く集まります。以前あった閉館の危機の際にも、地域住民の強い要望と支援により乗り越えることができました。
- ・2012年度に制作したのは、この2作品です。1つ目は、上北沢にある地域共生の家「おかさんのいえTOMO」です。古民家を開放し、地域住民が自由に訪れ、みんなで映画を鑑賞したり、子供を待つお母さんたちが集まってお茶を飲みながら子育てについて話し合ったりしています。近所に住んでいながら、なかなか接点がない人々を結び付けます。2つ目は「月見温泉」。銭湯に狭い地域を越えて集まる人たちが、単に入浴するだけでなく、出会い、繋がり、飲み会などを開いたりしています。
- ・以上の映像作品の中から私たちが見出したことは、人と人との結びつきだけに限らず、商店街、自治会・町内会、地域住民、大学や学生、行政との間に育まれる“ゆるやかな”連携と連帯です。年齢や性別、居住歴、立場の違い、障害の有無などに関係なく、異質な人やモノを受け入れる懐の広さを持って、社会的な“壁”を崩していく風通しの良い社会環境と言い換えることもできるでしょう。それこそが、「共生社会」の実質化をすすめるモデルになると私たちは考えます。
- ・私たち世田谷で学ぶ学生も、当事者意識をもって、まちなかでの諸活動を重ねていきたいと思っています。区にも、世田谷のまちなかをより一層可視化し、可知化（価値化・言語化）していく諸活動をともに進めていってほしいと思います。世田谷が、「共生社会」実現の最先進地になっていくことを願ってやみません。
- ・以上で発表終わります。ご静聴ありがとうございました。

図表II-43 日本大学文理学部世田谷スタディーズの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 日本大学文理学部「世田谷スタディーズ」受講生有志グループ 【発表代表者】 関 隆広</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>学びでつなげる「共育」環境の創造と地域連帯感の創出</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってほしいこと</p> <p>【区民ができること】 地域住民がそれぞれの専門性を生かし、親子で学びの場に参加すること</p> <p>【区に担ってほしいこと】 老若男女を問わず、学びたい人が無料で学び、相互に教えあうことができる環境づくり具体的には既存の学校・児童館・児童福祉施設・フリースクール等々への設備投資と地域住民への開放</p> <p>世田谷区という行政が教育環境への積極的投資を行うことで、区民の心の豊かさを伸ばし、教え合いの場を提供することで区民意識・共同体意識を高める</p>

- ・こんにちは。日本大学文理学部社会学科4年生の関隆広と申します。本日は、現在我々が履修している「世田谷スタディーズ」という授業との関わりからこの場に参加させていただくこととなりました。また、私自身が「世田谷スタディーズ」の履修生であるだけでなく、14年以上この世田谷区松原という地域で育ってきた人間であるため、今回は代表としてお話をさせていただきます。
- ・まずお話ししておきたいことは、私は今のこの世田谷という地域をあまり好きではないということです。なぜでしょうか。不安感からです。たとえば、セコムやアルソックなどに入らないと安心して旅行にもいけない、玄関の鍵をかけ忘れてしまうと不安でしょうがないという地域性であったり、また私の友人が自殺しなければならなくなってしまったこの地域性であったりと、理由はいろいろあります。私の友人は孤独を感じ、自ら命を絶つこととなってしまいました。人口約88万人の世田谷という地域ですら、孤独を感じ孤立してしまう人々が身近に無数にいます。住民の方々も空き巣や放火が頻発しているこの地域に対し、同様の思いがあることかと思えます。確かに利便性は非常によく、またそこそこの自然があり他の地域と比べると良いほうだといえなくもないですが、それでも私は今お話ししたような点からこの地域にマイナスイメージを持っています。
- ・しかし、「世田谷スタディーズ」という毎回世田谷のために活動するさまざまな人を招き、地域の未来を考え、意見を交換する授業の中で、1つ解決の糸口を見つけることができました。それが、「共育」です。「教え育てる」という教育ではなく、「共に育む」共育です。なぜこの共育が必要なのでしょう。街の施設を整備したり、新しい箱モノをつくったり、新しいセキュリティシステムを導入したりするだけでは、我々が根底に持つ不安感を消し去ることはできないからです。共に育む「共育」は、たんに知識や技術を教えるための指導ではなく、なぜあなたが生きているのか、なぜあなたはそのような活動をするのか、それを聞き、話し、考えることであり、本当に生きたつながりを生み出すものとなりえるからこそ必要なのです。自身の生きる地に焦点を当て、未来を考えるということは、まさに隣に住む誰かに焦点を当て、思いを向けることとなります。世田谷スタディーズでは、共に育む「共育」の萌芽を感じています。
- ・では、この「共育」の現場では、いったい何をするのでしょうか。一言でいえば、「語ること」です。語るのは、何かの第一人者である必要も、何かの成功者である必要もありません。例えば、これは実際に世田谷スタディーズにお越しくださった方々ですが、居酒屋のオーナー、コンサルティング企業の方、障害児を息子に持つお母さん、近所のご夫人、まさに日常ですれ違う一般の方々です。授業では、このような方々に「ご自身が何をしているのか、なぜそれをしているのか」を語っていただきました。このような地域住民を招く学習は、生きた知識、生きた繋がりを創出するための大切なツールとなります。
- ・現在世田谷区には、教育の場があふれています。正式な教育機関だけでも200校ほど存在しています。日本社会を再興する地域モデルとなることを目指すのであれば、この地域資源を生かさない手はないでしょう。この世田谷で、この地域資源を老若男女に開放し、共に育む「共育」の場を創出できるはず。また、我々区民は、この「共育」の第一歩として、今隣にいる人との上辺だけではない交流とつながりを、今よりも強く意識して生きることができないのではないのでしょうか。我々が今、地域学習を通じ、「わが人生とはかくたるや」を暗に語り合い、共に育む「共育」を行うことで、20年後には誰もが誰をも救うことができる、誰もが孤独を感じない地域を生み出すことができると信じています。
- ・ご静聴ありがとうございました。

図表II-45 NPO法人玉川まちづくりハウスの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 NPO 法人玉川まちづくりハウス 【発表代表者】 伊藤 雅春</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿 「コミュニティの中にさまざまなコモンズを生み出すことにより、 近隣の自治を実現する」 世田谷区に相応しい都市内分権の自治システムの実現 地域の緑や景観、公共施設、宅地、賃貸住宅など地域で共同利用・共同管理できる社会資源をできるだけ増やして自主財源を持った地域自治活動を実現する。 実現に向け区民ができること/区に担ってほしいこと</p> <p>【区民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの中に近隣の問題を自立的に解決していくアソシエーションを立ち上げること。 ・様々な活動を通して地域にできるだけ多様なコモンズを生み出していくこと。 <p>実績として、「コミュニティガーデン活動」や「住環境協議会」、「緑のコモンズ活動」がある。空き地や空き家の地域管理をコミュニティ事業体（社会的共同経営体）が担うような地域マネジメントが実現する世田谷区でありたい。 各地の集落営農組織が実現しているような2階建て方式の地域マネジメントシステムを想定している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2階部分（事業体）：複数の社会的共同経営体 ----- 1階部分（協議体）：1つの地域自治組織</p> </div> <p>【区に担ってほしいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの自立的な活動を受け止め、近隣が自発的に意思決定し、課題解決を実行していくことができる多様な近隣自治を実現する制度を創設すること。 <p>地域マネジメントを具体的に担う組織として、協議体と事業体による2階建ての制度を考え位置付けてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ自身が担う事業の価値を認め、コミュニティの中から生まれる事業体を支援できる仕組みを開発すること。 <p>例えば、宮本三郎記念美術館など世田谷区の施設の管理運営を地域のコミュニティ事業体と世田谷区の財団などとの協働で行うなど区の不動産の活用を地域の事業体に任せてほしい。</p> <p>【玉川まちづくりハウスの今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区と対等な関係にある近隣自治政府による地域マネジメントの実現 ・公有資産の地域管理と個人資産の共同利用を進め地域資産（コモンズ）を拡大することによって、経済的に自立した近隣自治政府による地域マネジメントを実現する。 <p>トラストまちづくりが展開している「地域共生の家」は、こうした地域づくりの実現を目指した先行施策であると位置づけたい。 これから20年の世田谷のまちづくりを考えた時、事業体としてのコミュニティの実現を最も重要な活動目標と位置づけ取り組んでいきたい。</p>

- ・こんにちは。玉川まちづくりハウスの運営委員長をしております伊藤と申します。玉川まちづくりハウスというのは世田谷の玉川地域を対象にして活動しているまちづくりNPOですが、活動を始めて20年になりました。まちづくりファンドとか世田谷のまちづくりセンターと共に歩んできたような気がしております。活動の全般は参加のまちづくりで有名な世田谷に学ばせていただいて、全国でいろいろ活動を展開してきました。後半は地域コミュニティに活動の場を少しシフトしてしまっていて、世田谷区もいろいろ変化があったと思うのですが、世田谷区の政策としては都市内分権であるとか地域自治の推進については少し積極的に政策を進めてこなかったのではないかとというような問題意識を持っています。
- ・そこで今回の提案といたしましては、20年後の世田谷区の目指すべき姿ということで、補足的に加筆した配布資料を配っておりますのでそちらをお持ちの方は見ていただきたいのですが、提案した中ではコミュニティの中でさまざまなコモンズをうみだすことにより近隣の自治を実現するという20年後の世田谷の提案にさせていただきました。言葉が少し難しいかもしれませんが、世田谷区にふさわしい都市内分権の自治システムを実現すべきではないか、ということです。世田谷区にふさわしいというのは、今回の発表を聞いていて改めて思ったのですが、やはり世田谷区は大きくて80万人以上の自治体ですので行政と住民の距離がそこまで近くありません。そういう意味で、きわめて自立性の高い、あるいは行政に頼らない、そういった区民意識の特徴を改めて感じています。地域の緑とか景観、公共施設や宅地、賃貸住宅など、地域で共同利用・共同管理できるような社会資源、このことを都市のコモンズというふうに提案させていただいているわけですが、そういったものをできるだけ増やして、自主財源をもった地域自治活動を実現していくべきではないかと思っております。この自主財源ということがポイントとなります。
- ・区民ができること、あるいは我々玉川まちづくりハウスができることとしては、コミュニティの中に近隣の問題を自立的に解決していくようなアソシエーションを立ち上げることと書かせていただきました。また、さまざまな活動を通して地域にできるだけ多様なコモンズを生み出すことを提案しています。我々の20年の活動の実績の中ではささやかではありますがコミュニティ・ガーデンといったような区の土地を地域の人たちが管理するような庭を造ることを6年間やってまいりました。また、住環境協議会ということで地区計画に基づく地域の住環境の管理運営ですが、これも10年以上やっております。さらに緑のコモンズの活動ということで、この資料の中ではケヤキの木を地域で寄付を100万円集めて移植をした、これは民間の木を地域の木(コモンズ)として守るというような活動をしてきました。
- ・今後は空き家や空き地などそういったものの地域管理をコミュニティの事業体、社会的共同経営体というふうに書きましたが、地域のマネジメントをこのようなものが担っていくような世田谷区になりたいと思っております。この社会的共同経営体というものは、集落営農の組織をイメージ、ヒントにしておりまして、集落営農の場合は二階建方式といわれておりますが、1階部分に自治的な組織で、世田谷区でいえば身近なまちづくり推進協議会等の地域自治組織をできるだけ多くの方が参加する形で設けます。その上に事業体としての社会的共同経営体、NPOのようなアソシエーションですけれども、それを複数、事業体のほうは地域にいくつかあっていいのですが、そういったものをセットとして地域運営しているのが集落営農です。これは各地で広がっていますが、これは農村の事例ではありますが、20年後を考えたときに農村では耕作放棄地を前にしたときにそれを何とかしなければいけないのでこの仕組みができてきていますけれども、都市の中でも空き地や空き家をどう管理するか、土地が売れないような時代になるのではないかと考えこうした事例がヒントになると思っております。
- ・区にはそういった組織が実現可能となるような制度を考えて頂きたい。具体的には、宮本三郎記念美術館のような公共施設の運営を地域の社会的共同経営体と財団法人との協働で行えるような制度の運用をお願いしたい。ハウスの今後の課題としてはトラストが展開しているような地域共生の家というような例に学んで地域のコモンズ、先ほどから言いますが住宅、個人資産なども地域で管理していく事ができるような自立的な地域マネジメントを事業体として運営していくというのが、ハウスの今後の課題であるように思っています。どうもありがとうございました。

図表II-47 世田谷福祉100人委員会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 世田谷福祉 100 人委員会 【発表代表者】 中澤 まゆみ</p>
<p>提案内容</p>	<p>20 年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>区民、事業者及び NPO 等の政策立案・政策評価への参画による 真の区民参加型コミュニティの実現</p> <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>【区民ができること】 区民、事業者、NPO 等、区との協働で、政策立案への参加および政策評価を実現できる仕組みと場づくりの実現。(仮称)区民政策協議会の立ち上げと、協議会を支える区民、事業者及び NPO 等のネットワーク化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい仕組み検証のためのモデル事業の実践 ・ 新しい仕組みに関する広報、啓発・普及活動への参画 ・ 政策立案・政策評価に関する区民力の向上 <p>【区に担ってほしいこと】 新しい区民参加型コミュニティのコンセプトの理解と、その仕組みづくりへの積極的参画。</p>

- ・世田谷福祉 100 人委員会です。今日は代表の長谷川幹が講演活動で不在のため、副代表の中澤が発表させていただきます。世田谷福祉 100 人委員会は 2007 年 11 月に、区と区民、事業者の協働事業としてスタートしました。区の保健医療、福祉、介護の課題に区と区民が共同で取り組むという初めての試みでした。100 人委員会では実践を通じて世田谷区の地域福祉の向上を目指し、その結果を施策への提案としてまとめることを目的に、3 年間の活動を行いました。委員会は 5 つの部会に分かれて活動を行ってきました。地域の福祉のマップづくり、人材育成、在宅ケアの仕組みづくり、それからまちづくり、障害への理解です。おのおのが実践活動を行い、毎年その活動結果について公開報告会を開いてきました。ちなみに私が参加したのは最後まで在宅を支える仕組みづくり部会で、医療と介護の連携をテーマに 5 回のシンポジウムを開きました。毎回 300 人くらいの区民の参加を得ています。
- ・3 年間の活動を経ていくつかの課題が見えてきました。まず、100 人委員会は区と区民と事業者の協働という新しい仕組みづくりを目的にしていますが、施策への提案と実践という目標がありながら、それを実現するための区との協働の手続きやプロセスが明確になっていなかった。2 番目に区政における 100 人委員会の権限と機能が確立されていなかった。そして 3 番目に実践のための予算確保のプロセスが整備されていなかった。こうした課題を抱えた 3 年間の活動を通して、私たちは真の協働、区民参加というのはなんだろうかということをおおいに考えさせられました。そして、区にも区民参加の本当の意味を一緒に考えていただきたいと思いました。
- ・以上のような課題を踏まえながら、新たな基本構想に対する提案としてせたがや福祉 100 人委員会の目指す方向を示します。国や自治体の予算は年々削減されています。その限られた予算の中で住みやすい地域をつくっていくにはどうしたらいいのか。それは区民の力、協働という住民参加の形をもっと生かしていくことです。先ほど職員研究会の方も、行政主体のまちづくりの限界について発言されていましたが、区民の力を区の協働として活かしていくことはとても重要です。世田谷区には 60 以上の NPO があり、ボランティア活動が非常に盛んです。他の区に比べると区民活動が非常に盛んだといわれ、今回の提案発表会でも世田谷区を住みやすく願う 29 の団体が参加しています。行政はこの力を活かさない手はありません。ところが、これだけのパワーがありながら世田谷区には弱点があります。「行政に頼らない」と先ほどどなたかがおっしゃっていました。自主独立の精神は素晴らしいと思います。ですが、その分、区民団体の横のつながり、ネットワークが世田谷区では非常に弱いように感じます。
- ・そこで仮称ですが、私たちは区民政策協議会というものを提案することにしました。これはご覧のように、区民、事業者、NPO、医療福祉従事者、それから世田谷区に 11 ある大学からの専門家と学生を含めた協議会です。区民の力を結集し、おのおのの実践の中からでてきた区の課題を抽出し検討することから、その成果の検証までを行う真の区民参加型コミュニティです。その中の一員として 100 人委員会も参加します。
- ・新たな基本構想に関する提案として、私たちは次のように提案いたします。課題は待ったなしです。「20 年後の世田谷区を目指すべき姿」とは、区民・事業者及び NPO などの、施策立案と施策評価への参画による、真の区民参加型コミュニティ 区民政策会議の実現です。「実現に向け、私たち区民のできることは、区民、事業者、NPO などと区との協働の場の立ち上げです。そして区に担ってもらいたいのが、新しい区民参加型コミュニティのコンセプトの理解と、その仕組みづくりへの積極的参加です。世田谷区には 20 年後といわずに明日からでも取り組んでいただきたいと思います。ご清聴、ありがとうございました。

図表II-49 わいわいコミュニティ・たまがわの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 わいわいコミュニティ・たまがわ 【発表代表者】 林 美栄子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「誰にでも居場所がある寛容なまちをつくること」</p> <p>* 保育園設置等で表面化しているが、不寛容な住民が増加傾向にあるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人と人の顔が見える関係作りの拠点を作っていくこと。 ・ その拠点には、<u>大きなキッチンと居心地の良い食堂とリビングがある「いつでもキッチン」</u>を設置していること。（朝 10 時～夜 10 時まで開設） ・ どんな人も必ず食事をします。さまざまなバックグラウンドや世代を超えて一緒に料理を作ったり、食事を共にすることで、相手を知り、受け入れる気持ちが醸成されていきます。 <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>【区民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いつでもキッチン」実験的運営開始：既存施設を改装し区と区民の協働プロジェクトとして、平成 26 年度開始を目指す。 ・ その後、公共施設、商店街、その他スペースでの実施や、企業参画の可能性を探る（東京ガス、設備メーカーなど） <p>* こうした食事作りのできる拠点整備は、災害時にも、きめ細やかなケアが必要な人たちへのサポートを提供できる可能性が高い。</p> <p>【区に担ってほしいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厨房や水回り等の設備、拠点整備全般には大きな資金がかかります。補助金拠出や無利子の貸付けの仕組みなどを作ってほしい。 ・ 運営のためのガイドライン作りを区民と一緒にまとめるなども必要です。

- ・はじめまして。わいわいコミュニティ・たまがわの林美栄子と申します。私たちの活動は、世田谷区鎌田3丁目の食事サービスサポートセンター「だんらん」という施設を拠点として活動を続けて5年目です。その施設は元給食センターで高齢者の健康と食を支える施設として今運営されています。私たちは「ゆったりカフェ」というコミュニティカフェを月2回開いていますが、赤ちゃんから高齢者まで、多世代の交流を、食を通じてしていきたいという活動です。
- ・私たちがしたいのはその活動の延長なのですが、「いつでもキッチン」という活動を提案したいと思っております。誰でも居場所が用意できるまち・世田谷をつくりたい。キッチンでの食づくり、食を通して寛容なまち・世田谷をつくっていききたいという主旨です。これは私たちの中の問題意識として、世田谷はどうも不寛容なまちになっているのではないかと。それは保育園の設置問題でも明らかです。これは世田谷だけの問題ではありませんが、あらゆる公園に騒音とか危険防止とか様々な立て看板があり、子どもたちが立ち寄れない場所になっているとか、10代の子もたちがたむろするような場所には高周波の音を鳴らして集まれないようにしているとか、西東京市の話は有名ですが、噴水があると子どもたちが来てうるさいからといって最終的には噴水が止められたとか。そういった不寛容さは社会に蔓延してきているわけですが、世田谷はどうかそういうまちにならないでほしい。そういうことの中で、このような活動が顔の見える関係を作り、寛容さを持ち合わせたいまちをつくるのではないかなと思っています。
- ・「いつでもキッチン」というのがどのようなものかといいますと、朝10時から夜10時まで開いていて大きなキッチンとアットホームな食堂とか居間が用意されています。材料持込で料理する人もいればお金を払って食べる人もいます。料理グループも、食べる人も、みんなで食を通じた知恵や時間や楽しさをシェアすることができる。そういう中で、誰かが誰かと出会える、そういう機会をたくさんそこでつくれるのではないかなと思っています。こういった「同じ釜の飯」を食べるとい活動、私たちは“おなかまめし”と呼んでいます。その中で、信頼関係が醸成されていくのではないかと。それは私たちが今まで活動してきている中で、子育て世代が中心ではありますが、やはり5年という時間の中でそういった関係がしっかりとできていくという実感があります。これをまち全体に広げれば、結構面白い、寛容なまちをつくることに繋がっていくのではないかなと思っています。
- ・食というのは、「誰でも必ず食事をする」ということの中なかでは、人と人をつなぐコミュニケーションツールとして、ツールという言い方は適当ではないかもしれませんが、非常に有効なのではないかと確信を持って活動を続けています。みんなでわいわいと美味しい食事を作って食べる場所があり、顔の見える関係を重ねることで、そこが自ずと居場所になっていくということ。それが多世代であってもいいし、例えば、子育て世代だけでもいいかもしれない。例えば、障害がある人だけでもいいかもしれない。ただ、様々なバックグラウンドを持っている人同士が出会うような場所になったら理想的だなと思っています。ただ、多様な人たちがずんわりと楽しく交流できるわけではないことも、これまでの活動で学びました。
- ・こういった美味しいものを食べるということは、やはり誰にでも居場所を用意できるということのベースになると思っています。そして明日への希望や活力が生まれてくるものだと思います。ご飯がちゃんと作れない人というのは高齢者や一人親家庭といった、そういったくくり以外の人でもたくさんいます。ですから、「いつでもキッチン」が食を通して寛容なまち・世田谷をつくるインフラになっていけばいいと思います。最後に、寛容なまちをつくるには、信頼関係を醸成する何らかの機会と時間が必要になってくると思います。さまざまな人が共に食卓を囲む機会を緩やかにかつ継続的に持てたなら、人を信頼する気持ちが孤独や孤立を防いで、そこが大切な居場所となっていくのではないかなと思っています。さまざまな理由で家族と食卓を囲む時間の持てない人はなおさら、こういう機会を持てるよう、各地でその地域特性に合った場をつくっていただけると思います。以上で私たちの発表を終わります。ありがとうございました。

図表II-51 区民ワークショップ19班の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 区民ワークショップ19班 【発表代表者】 栗田 克己</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿 地域間のコミュニティーの充実 環境が整備された安心・安全な住みやすい街（道路の整備と放置自転車 ゼロ化 自然・緑を残す）</p> <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってほしいこと</p> <p>【区民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。（住民からの情報発信） ・ 地域の行事に参加する。 ・ ボランティアに応募する。 <p>区民自らリサイクルを实践（自転車、家具 etc、洋服など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エコを意識して生活をする ・ 地域の清掃をする <p>【区に担ってほしいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報交換のできるシステムを作る（twitterなどの活用） ・ 地域間を結ぶミニバス ・ ボランティアを募集するシステムを幅広く作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車専用道を作る。 ・ 自転車置き場を増やす。

- ・栗田と申します。今回発表させて頂きませすのは、昨年に区民ワークショップが開催されたのですが、そこで大変貴重な経験をしまして、それを是非とも今後とも活かしていければと思います、今回、このような場に参加させて頂きました。詳しくはこのスライドをご確認頂ければと思います。
- ・はじめに問題意識ですが、これは実際にワークショップであがってきた問題意識であったり、おそらく、今日、ご出席頂いております皆様も認識頂いている、誰でも考えている問題ではないかと思ひます。そこで、このワークショップで、グループ 19 で頭で思っていたことが実際にアイデアとして出てきたのが、以前実現されていたことがなくなってきた、初心に戻って考えて行動していくことが重要だというようなところが出てきました。
- ・課題解決のための3つのソーシャル(social)ということで、今回の基本構想を方向付けるテーマは3つに集約されるのではないかと私は考えています。1つは社会課題解決、ソーシャルサステナブル(social sustainable)。2つ目は社会関係資本、ソーシャルキャピタル(social capital)と言われてはいますが、この分野。3つ目は社会的責任ということで、ソーシャルレスポンシビリティ(social responsibility)。社会関係資本に関しては、人と人とのつながりということなのですが、そういったどこかに分類されるのではないかと考えています。
- ・具体的に区民ワークショップ 19 班で出た内容ですが、1つは地域間コミュニティの充実、2つ目は環境が整備され、安全・安心な住みやすいまちというようなものが出てきました。特にここで、私が注目したのは、区や民間事業者に担ってほしいということで、情報交換できる仕組み、あるいは何らかの形で地域コミュニティの活動を促進する仕組みといったものが必要ではないかと考えています。こちらについては既にご提案されている方もいらっしゃると思いますので、今日は割愛します。
- ・地域コミュニティの充実についてはソーシャルキャピタル、そして、下の環境整備に関するものについては残りの2つに分類されるのではないかと考えています。地域間ネットワーク強化とほとんど挙げたのですが、私が昨年のワークショップで感じたことはこの地域間の違い、つながりの薄さをすごく感じました。ですので、それに対して、何らかの施策をやっていく必要があると感じてはまして、基本構想において、地域間を結び付ける中間媒体を考慮する必要があるのではないかと考えています。
- ・具体的にそういったことができると、まず、区全体の活性化、そして、更には地域内コミュニティの強化ということで、やはり、世田谷というのは、図で示しましたが、広い、つながりが薄いというのを強く感じています。そこら辺を強化していく必要があるのではないかと考えています。区外というのをあえてあげましたが、これは区でどうしても足りないリソース等については、区外の企業なり、何なりといったところとの連携も必要ではないかと考えます。これを具体的に考えていくための3つのソーシャルネットワークというアプローチ、構造的、関係的、協働的といったところから、具体的に中間媒体としてどういったものがあるかということに関しては、1つ目は機会を提供するコーディネート組織、あるいはコミュニティプラットフォームというもの、2つ目は場を提供するICTの利活用、3つ目はその土台となるコミュニティ意識の醸成といったところになるのではないかと考えています。
- ・具体的施策というところの応用モデルを考えてみたのですが、コーディネート組織というなかでは、グループ 19 の討議からの応用問題と考えられるものとしては、リサイクルの仲介、自転車のシェアリング、EV、電気事業者のスタンドの運営、ICTの利活用、コミュニティの醸成ということで、こういったところが、何人もの方が発表で話をされており、シェアリングエコノミーあるいはスマートコミュニティといったものを考慮していく必要があると考えます。
- ・まとめとして、1つは情報化社会を踏まえた基本構想の必要性ということで、私が気づいたのは情報化社会、ITが進んでいますが、今回の基本構想であまりこの点に触れていないのではないかと感じます。また、地域コミュニティが弱まっているところですが、やはり1つは個人情報という大きな課題がありますので、その保護と活用のバランスを考慮する必要があります。2つ目は実践的な基本構想とするためのあらゆるステークホルダーの巻き込み、活用ということで、区民の意見をもっと吸収して、社会解決をしていくこと、色々なところのノウハウや知識を最大限活用する。さらにシェアリングエコノミーをベースとしたコラボ消費による地域コミュニティの活性化。これは今出た話ではなく、むしろ昔からお裾分けなどそういったところの話ですので、やはり初心に立ち返ることが重要ではないかと考えます。ご静聴ありがとうございました。

5. 発表

発表 では下記の通り 8 団体から発表があった。

図表II-53 発表 の参加者

番号	団体名または代表者名	提案概要
23	江頭智子様	若者も高齢者も生き生きと力溢れた街
24	エンジョイ子育て応援隊	子育て世代の孤立を無くし、多世代が共に子供たちの成長を見守り育むことの出来る地域社会の実現
25	きっずタウン・プロジェクト	子育て世帯が住みたい街No.1 地域で生涯子育てを楽しむ街
26	駒沢ドッグストリートプロジェクト	学び楽しみ高め合う、だれもが生活を楽しめるまちの実現
27	NPO 法人世田谷さくら会	心の健康を保持できる環境の整備 精神保健の充実、アウトリーチ型精神保健センター設置
28	NPO 法人せたがや子育てネット	支所単位の虐待発生予防的な子育て支援ネットワークの構築
29	NPO 法人世田谷区視力障害者福祉協会	地域での共生：障害があっても高齢になっても地域で生活できる

また、世田谷区基本構想審議会から、森岡清志会長、宮台真司会長職務代理、小林正美委員、竹田昌弘委員、宮田春美委員、上野章子委員、永井ふみ委員、松田洋委員、宮本恭子委員、桜井純子委員、田中優子委員、村田義則委員の参加があり、発表終了後全体に対し、次頁の通り、コメントがあった。

図表II-54 発表 での委員からのコメント

小林正美委員

- ・世田谷区は核家族が多く、隣人を良く知らないことも多い現状は東日本大震災の経験をふまえた防災まちづくりという観点から見ると非常に問題である。この点に関して、皆様のご提案において、多様な世代が参加するコミュニティの形成に係るキーワードが多く示されており、大変重要なご指摘を頂いたと思う。
- ・区政への区民参加が重要となる中で、玉川まちづくりハウスの方々が提案されているように、区民団体が自主財源の確保も含め責任をもってまちづくり活動に取り組んでいるのは大変すばらしいと思う。

宮田春美委員

- ・20年後に社会を担っていく子供を育てていくことは重要である。そのために、子育てをしている親が孤立しないですみ、働きながら子育てができるようにするため、家庭と学校、地域が連携して子供を育てていくことが必要である。
- ・また、だれもが安心して暮らすことのできる環境を整備することが重要である。

永井ふみ委員

- ・キッズタウンの方々が提案されていた理想の子育て支援サービスはとても重要なことと思う。こういうものは区民と行政がともに率先して行っていく必要があるのではないかと。
- ・交流の機会や居場所づくり、集いの場づくりに係る提案が多くの団体からなされていた。他の世代と交流することは有益な体験であり、多世代交流はとても重要である。
- ・区民が区政にどう関わっていくかは今後の大きな課題である。助成などの制度が分かりにくいといった指摘もあり、こうした区政のわかりやすさの向上もふくめ、区民の区政への参加のあり方を変えていく必要があると思う。

各団体の発表内容の詳細は次頁以降の通りである。

図表II-55 江頭智子様の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 【発表代表者】 江頭 智子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>若者も、高齢者も生き生きと力溢れた街！！</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってもらいたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想はどれも悪い訳ではないが、地域活性化の為の具体性が欠けているのではないか。 <p>地域の若者に、レベルの高い職場を！！</p> <p>若者のために最先端企業の誘致をし、地域の若者が生きがいを持ち、かつ高収入が約束され、更に、それが国家も支える力となるよう、区は努力できないか。地域の住民は、比較的、親の代から家があることが多い。そのため地方出身者を新たに雇うより、給料は安くとも、有能な人材が生きがいを持って、働くはずという事をアピールしてほしい。</p> <p>国立の病院や大学病院を誘致すべき。地域基幹病院が区の広さに比して、一つでは余りに少ない。これからは治療に掛かるまでの速さ、検査の正確さが重要。</p> <p>家族が高齢者と一緒に暮らすのは、85歳位までが通常は限界。トイレまで5m歩くのが、やっとになってしまう。家族は仕事と介護、見守りで共倒れになり兼ねない。80歳位から、学生時代などの親しい友人同士で、サービス付き高齢者住宅を作ったり、申し込んだりして、少し、人の手を頼んで楽しく暮らす。</p> <p>障害者のサービス付き親子住宅も作ってほしい。</p> <p>商店街毎に会社組織にできないか。商店主や家主は株を持ち、役員になって、商店街全体の企画を立てる。商店街として募集し、空き店舗無し。店の扱う商品や飾り付けもみんなて話し合う。商店街全体で売り上げが伸びれば、ボーナスもばっちり。株の配当も出る。社員は厚生年金を納める形になるので、老後も安心。会計や総務も商店街全体で一つで済む。定年も原則無し。大型スーパーにはできない面白さになる。仲見世だってできる。区は後押ししてほしい。</p>

- ・江頭と申します。通常は上町地域で民生委員をやっております。また、ケアマネージャーの資格も持っておりますので、今回の提案はその両方を併せて提案させていただいた形になっております。
- ・2年ほど前に大学院に通っていました長男に、国民年金未徴収という通知が来ました。すると、経済専門の大学院生だった長男は払いたくないと言うのです。よく聞くと、どうせ払っても自分たちの時にはあるわけがないのでつまらないと言い切ったのです。とりあえずは払ったのですが、後で、今の政治は莫大なる負の資産を若い人たちに渡すことしかしていないのではないかと、つくづく感じてしまいました。今回、そのためにここに参加することを決意いたしました。
- ・20年後の世田谷区が目指すべき姿として、「若者も、高齢者も生き生きと力溢れた街!!」ということを挙げました。
- ・実現に向け区民ができること、区に担ってもらいたいこととしては、
 地域の若者に、レベルの高い職場を!! これは、私には息子が二人おりまして、次男が24歳です。世田谷区内の公立の小・中学校を卒業し、今もその時の多くの友人が遊びに来ています。その友人たちの進路の件で驚くことを聞かされたのです。ほとんどが、フリーターかアルバイトがやっただというのです。同期の大半が、です。今回発表のグループに入っている高野さんもワーキングプアのすさまじさを知って、今NPOの創設のために必死で動いているのですが、そこで若者のために、NTTなどの最先端企業の誘致をして地域の若者が生きがいを持って、かつ高収入が約束されて、さらに国家を支えるような力になる、そういう努力を区はしてもらえないか、という提案を致しました。世田谷には宇奈根や鎌田にまだまだ比較的地価の安い土地があります。成城学園や二子多摩川にコミュニティバスを導入したり、地域住民は比較的親の代から家があることが多いので、地方出身者を新たにお雇いになるよりは、給料は安くとも有能な人材が生きがいを持って働いてくれるのではないかと、ということをお話を区はアピールできないかと思いました。
 介護も医療もそうですが、今、地域基幹型の病院が非常に重要視されています。ところが、世田谷には一つしかないのです。人口が86万いるのに一つしかないのです。それで、国立の病院や大学病院を誘致してもらいたいということをお話を挙げました。今は、とにかく、治療にかかるまでの速さ、検査の正確さが最重要です。
 サービスつき高齢者住宅を促進して欲しいということですが、この文章に加えて、サービスつき高齢者住宅は二種類あって、台所・食堂兼居間、浴室が共有タイプは世田谷区ですと大体家賃が5万円くらいで貸せるそうなのですが、これは高齢者の大半の閉じこもりの原因であるうつ予防と同じく非常に多いケースの、高齢者がインフルエンザやぎっくり腰で寝ついた時に、尿路感染から脱水や低栄養になって、病状が悪化することがあるのですが、その対策にも非常に有効と考えています。さらに、費用も安いので、生活保護や遺族年金だけの方でも楽しく暮らせると考えています。ただし、こちらには書いていませんが、今、高齢者は食費と食事づくりが非常に問題になっております。小学校などの給食室から、350円くらいで、おかずだけでよいので2食分を月～金曜日までわけていただけないかということをお願いしたいと思いました。実は、給食室は教育委員会の管轄で、この件に関しては区長だけしかお話をできないことを知ったので、ぜひお願いしたいと思いました。
 障害者のサービスつき親子住宅もつくって欲しいということですが、私は母と1歳違いの重症心身障害児の妹を37歳で亡くなるまで世話をしてきたのですが、重症心身障害者には長年、親亡き後のわが子を誰が見るというテーマがあったのですが、非常に密着が強いので、できればサービスつき高齢者住宅の障害者版、親子版みたいなものを、区でつくっていただければと思いました。
 商店街に関しては、私の思いつきですので、ご参考にしてください。
- ・ご静聴ありがとうございました。

図表II-57 エンジョイ子育て応援隊の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 エンジョイ子育て応援隊 【発表代表者】 田沼 尚美</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>『子育て世代の孤立を無くし、多世代が共に子供たちの成長を見守り、育むことの出来る地域社会を実現する』</p> <p>実現に向けた提案 自らも核家族で育ち、悩みながらも現在子育てに奮闘している世代(20代、30代) 何か若い人達の役に立ちたいと望む、子育てを終えた母親世代(40代、50代、60代以上) 積み上げたキャリアや経験を社会の為に活かしたいと願うプロフェッショナル ボランティア精神に則り、各区民センターなどに家庭的且つ本格的なカルチャー講座を設け、これら3者の出会いの場をコーディネートすることによって、深刻化する子育てママの孤立を防ぎ、多世代の活発なコミュニケーションの基点とする。(他区にて、すでに同様の方式での成功事例あり)</p> <p>区に担ってほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協同企画事業としての推奨 ・ 区民センター、子育て支援センター、子育てステーションなど、区施設の提供 ・ 区広報への掲載

- ・エンジョイ子育て応援隊の田沼尚美です。よろしくお願いいたします。
- ・本日は、20年後の世田谷区が目指すべき姿として、『子育て世代の孤立を無くし、多世代が共に子供たちの成長を見守り、育むことの出来る地域社会を実現する』ため、「子育てを楽しめる世田谷」のご提案に参りました。
- ・はじめに、今日の子育て世代の現状についてですが、今、母親の孤立化や育児不安の深刻化が大きな社会問題となっています。お手元の資料にありますように、日本では虐待に関する相談や通報は増加し、未就学児の母親の大多数が育児でイライラを感じていると答えています。その中で、世田谷区では、出生数、幼児数が増加しており、また、区内における乳幼児の在宅子育ての割合が非常に高いことなどから、世田谷区における子育て支援事業は急務だと言えます。
- ・そこで、これらの問題に対する具体的な解決策として、支所単位に地域ごとの区の施設を利用したカルチャースクールの設立を提案いたします。ここで言うカルチャースクールとは、地域の中で母親が子どもを連れて受講できる学びの場です。また、子育てOBが運営に加わることで、子育て世代間のみならず、子育てOB世代ともコミュニケーションがとれる交流の場となります。カルチャースクールの主な特徴としまして、まず、講師に活動の趣旨に賛同しボランティア精神で参加する、各分野のプロフェッショナルを有償ボランティアとして起用します。高水準の講習内容により、受講者は高い満足度が得られます。食育メニューの料理教室、ヨガやストレッチ体操、ネイルアートなど、すでに私たちのネットワークを通じて講師の人材は確保できております。また、各講座には子育てOB世代が有償ボランティアで講師のアシスタントとして加わります。子育てOB達は子育てに悩む母親の相談相手となるだけでなく、長期的に地域で親子の成長を見守る存在となります。講座は3ヶ月単位で行うことによって、一般的に行われている単発的な取り組みではなく、子どもの発育に合わせて参加できるプログラムを行います。親子で講座に通うということは、母親が自分の子どもの面倒を見ながら学ぶ、ということであり、ここがこのカルチャースクールのユニークな点です。親子参加型のプログラムにより、子どもを預けるという不安や、子どもに寂しい思いをさせるのではないかとというストレスを感じずに、母親が知的好奇心を満たしたり、子育て以外の面で生活の質を向上させることができます。学びの速度は緩やかかもしれませんが、続けることで親子共に成長を実感し、またそれを共有し合える仲間と出会えます。子どもと一緒にいながらも自分のための時間を持てるというライフスタイルを母親が経験することで、家庭での育児にも余裕と自信が持てるようになります。スローガンは“子育ても、自分育ても楽しもう”です。
- ・世田谷区に関わって頂きたい方法として、地域における定点活動の場としての区の施設のご提供や区の広報を通じた利用者募集や活動の案内などのサポートを希望します。こうした区の援助を受ける事によって、受講者の参加費によって運営費の大部分を賄う事を想定している本プログラムでは、低額料金で講座の提供が可能となり、お母さんたちが安心して参加できるものになると考えます。
- ・区における主なメリットとしては、地域の中の子育てに対する多世代の意識が高まり、それが長期的には地域の活性化につながる事が挙げられます。また、子育てOBを有償で迎えることで中高年世代の雇用機会の創出にもつながります。
- ・このような子育て支援としてのカルチャースクールという取り組みを通じ、「子育てを楽しめる世田谷」が必ず実現できると考えます。ご静聴どうもありがとうございました。

図表II-59 きっずタウン・プロジェクトの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 きっずタウン・プロジェクト 【発表代表者】 成川 由理</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>子育て世帯が住みたい街 No.1。地域で生涯子育てを楽しむ街！</p> <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってもらいたいこと</p> <p>核家族化の進行が子育てのゆとりを奪い、子供の多様な価値観や興味関心の広がりを促す機会が減りつつあります。また、少子化で子供一人当たりの教育費が上昇し、塾や民間学童事業が乱立しています。しかし、塾や学童などのサービスは増えても、それら同士や学校・家庭をつないだり、そこからはみ出した子供や、利用日以外の子供を安全に受け入れたりする仕組みがなく、あえて言えば、その役割を担っているのはファーストフード店やコンビニだというのが現状ではないでしょうか。</p> <p>そこで私たちは「18歳以下の子供限定のカフェ」を作ろうと思います。そこは放課後、宿題や遊びを持って子供が集まれる場所。食とセキュリティの安全性を確保した、子供が自分のペースで過ごせるカフェです。</p> <p>そこには、子供の学習サポート、世代間コミュニケーション、日常に生きる時事の解説、読み聞かせ、お金の価値など社会で自ら考え生きていくことにつながるプログラムも仕込みます。そのためには、地域の大人たちのサポートが欠かせませんし、商店街の中で場所を確保できればさらにすばらしいと思います。保護者が安心して子供を預けられ、子供の成長につながる場所を地域の協力を得ることで創出し、「子育てするなら世田谷がいいよね！」と思われるまちづくりをしたいです。</p>

- ・子ども達が安心して過ごせ生きる力が身につく場所、きっずタウンについてお話をさせていただきます。まず、我が家の現状をお聞き下さい。我が家は私と主人がフルタイムで働いております。子どもが2人おまして、小学校4年生と2年生です。小学校4年生の息子が小学校に入学するとき、学校と民間学童の体制を整えて、学校生活をスタートしました。しかし、入学して数ヶ月で子どもに言われました。「俺の居場所をつくってよ。学校に行ってからママが帰ってくる、7時30分まで全部スケジュールが決まっていて、自由な時間がないんだよ。」と。大変ショックを受けました。そこから、社会福祉協議会を利用させて頂いたり、シッターを利用させて頂いたり、また、塾に通うようになったりということで、放課後を模索しているのですが、まだ、納得する放課後が見つかっておりません。そんな中で我が家が欲しいサービスがないのであれば、子どもと一緒に作っちゃえという話になり、この検討が始まりました。
- ・では、同じような保護者の方がどのようなニーズを抱えているか。これはあるアンケート調査ですが、共働きどうかにかかわらず、保育・託児サービスのニーズが小学校であっても高いということがあります。その次に、今度は教育内容についての保護者の関心です。教育サービスの選択要因、それから子育てで注意していること。こういったことのアンケート調査をとった結果、教育サービスを選ぶポイントは家庭と同じ価値観、視線で子どもを見てくれるところということです。最後に、働くママの不安としまして、働いていて放課後の宿題などを丁寧に見られないので、日々の学習でのつまずきに不安を感じているというものです。
- ・さて、これからの社会に必要なもの、これを見てみました。経済産業省が出した、企業人事担当へヒアリングした学生に求める力ですけれども、主体性、コミュニケーション力、粘り強さ、こういったものが挙がりまして、課題に根気強く、仲間と協働して向き合う力がこれからの社会には求められていることがわかります。既に私たち、大人は実感している力だと思います。
- ・では、子どもの放課後、これを今まで大事にしたいと思っている軸で比べ、表を作ってみました。いつでも通えて教育効果のあるサービスが不足しているのではと感じています。そこで、提案するのが、子どもを受けとめ、育てる場所、きっずタウンです。何をするかは子どもが選びます。一人で来ても、友達と来てもいいです。保護者がいつでも安心して預けられます。
- ・こだわりのポイントは4つです。一つ目は安全。18歳未満限定、大人の悪習、たばこであるとか、お酒であるとか、こういったものが排除された空間です。それから、食です。栄養バランス、それからカフェとして機能しますので、子どもが食べたいときに自分で自由に時間を選んで食べられます。そして学習サポート。宿題等でつまずけば、そっと大人がサポートしていきます。そして、一番こだわっているのが、生きる力プログラムです。平日はコミュニケーションのトレーニングだとか、読み聞かせ、それから時事のお話、こういったものを日々子ども達に提供していき、子どもがこれから生きる力を育てていきます。そして、週末は、自分の学んだことをいろいろ社会で伝えたい社会人がたくさんいますので、そういった社会人とコラボしながら、例えば、アプリケーションの制作、折り紙教室、フリーマーケット、こういった楽しいものを、親子で参加できるようなものを土日に仕込んでいきます。これができるのかという話ですが、一つのスペースの中でも、子どもは外野がざわざわしていても、その場が楽しければ関係ありませんので共存してやっていけると思っています。
- ・最後に、区に今後お願いしたいことですが、広報、こういったサービスがあるということを小学校に上がる保護者の方、それから、不登校のご家庭、就労を考えているご世帯へ是非紹介を頂ければと思います。
- ・受入先を作ることがゴールではなく、これからの教育の実験現場として活用していきたいと思えます。そこで出た成果を、また教育現場に還元していくことで、学校教育に全てを期待するのではなく、学校教育ができること、我々親ができること、民間企業ができること、行政ができること、それぞれの強みを活かして、要はハイブリッドな社会を作っていく子どもの成長を支援していきたいと思っています。お力添え宜しくお願いします。ご清聴ありがとうございました。

図表II-61 駒沢ドッグストリートプロジェクトの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 駒沢ドッグストリートプロジェクト 【発表代表者】 斉郷 恵</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「学び楽しみ高め合う、だれもが生活を楽しめるまちの実現」</p> <p>実現に向け区民ができること/区に担ってほしいこと 「犬をきっかけに、誰もが生活を楽しめるまちを作る」</p> <p>犬連れの人が多く訪れる駒沢には、緑豊かな公園や個性的で専門知識を持った商店がある一方で、糞の放置など、一部のマナーの悪い飼い主のために、まちの人たちが大変迷惑している現状がある。このことを知り、心を痛め、犬を愛する私たち自身が解決したいと考えるようになった。</p> <p>駒沢ドッグストリートプロジェクトは、犬を愛する人と、犬を愛する商店を、それぞれ『クラブ』と『商店会』としてゆるやかに組織し、地域での主体となり、理想の「駒沢スタイル」の実現をめざす。さらに、地域の住民、大学や企業とも連携し、犬を好きな人も、嫌いな人もいっしょに暮らせるよい関係を作ろうとする日々の取り組みを行う。</p> <p>「駒沢スタイル」とは、犬と人が楽しく過ごすための3か条。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、犬を知り、最後まで犬を愛し大切にすること。 2、犬と遊び、犬と学び、犬と楽しむこと。 3、犬が苦手な人にも配慮したマナーの向上に努めること。 <p>互いに学び、楽しみ、高め合う「駒沢スタイル」を、「世田谷スタイル」として広げ、「世田谷ブランド」として誇れる生活文化に育てていきたい。</p>

- ・駒沢ドッグストリートプロジェクト代表の斉郷恵です。私たちは昨年設立したばかりの団体です。それでは「学び楽しみ高め合う、だれもが生活を楽しめるまちの実現」について意見発表・提案を致します。
- ・私がまちづくりを考えるようになったきっかけは犬でした。犬を飼うようになってから、自分が暮らすまちをもっと良くしたいと思うようになりました。犬がきっかけで世田谷の魅力も再発見しました。世田谷区では4歳以下の子どもの数と犬の登録数はほぼ同じで東京都第1位です。また、今後犬を飼いたいと考えている人は今の倍になるという調査もあります。
- ・緑豊かな駒沢公園、個性的で高い専門性を持った商店、ドッグランと犬を愛する人々がいて、とても魅力的なまちです。たくさんの犬連れの人達がやってきます。私たちはこのまちでもっと素敵に、もっと楽しく、人と犬が共存できる素晴らしいまちを作りたいと願うようになりました。ところが、まちでは犬を巡って大変な問題が起きていました。それは、マナーの悪い飼い主の問題です。スライドの例にありますように、マナーが悪いという話を、たくさん聞きました。糞の放置もそうですけど、飲食店ではマナーが悪い人を見て他の客が来ないというようなことを聞いて、大変衝撃を受けました。ところがこのマナーの悪い飼い主に困っているのは、まちの人、犬が好きな人はもちろんですけど、嫌いな人、犬関連の商店、一般の商店、そして犬を愛する飼い主です。一番困るのは実は、犬を愛する私たちだったということにここで気づきました。ここで挙げた人達が皆、解決したい人達です。
- ・そこで、私たちは「駒沢スタイル」、人と犬が楽しく過ごすための3か条を提案します。
 - 最後まで犬を愛し大切にするために犬を学ぶ
 - 幸せに暮らすために犬と遊び楽しむ
 - 誰もが楽しめるためにマナーを高め合う。マナーを守るのは格好いい、楽しい
- ・この「駒沢スタイル」が実現したとすれば、わざわざペット可と謳わなくても誰でもいつでも、公共の場でも、その場に依じて出入りすることが可能な社会になります。
- ・実現に向け私たち、区民は何ができるでしょうか。(スライドにある輪になった図を説明します)

まず、駒沢公園を取り巻く、犬に関する専門商店、犬を愛する飼い主のクラブを組織し、それを緩やかにつなぎます。このつなぐ役割が駒沢ドッグストリート事務局になります。このプロジェクトには今、犬が嫌いな方にも是非参加して頂きたいと思っています。地域の大学、企業、団体とも連携し、犬が好きな人も嫌いな人も一緒に暮らせるよい関係をつくる活動をしていきます。
- ・あるペットショップのオーナーの方がおっしゃっていました。「この駒沢のまちで店を出しているというのは、皆、犬に対する熱い想いを持ってここにやってきたんだ。だから、人と犬のつきあい方を伝えるのが自分達の使命なんだ。」とおっしゃっていました。また、活動する中である方がおっしゃっていました。「犬はうんちをするからいいんだ」と。それはそこにある問題が目に見えてはっきりそこにあるということです。この問題を誰かが解決しなければ、この楽しいまちは実現しません。私たちは犬をきっかけに誰もが生活を楽しめるまちを実現することを目指します。
- ・そこで、私たちはマナーを守る楽しい仕組みを考えました。これは詳しく説明したいところなのですが、時間の限りで説明いたします。まちや商店で楽しくマナーを学んで、マナー宣言します。すると、とても格好のいいバッジを授与されます。そうすると、愛犬と一緒に犬を愛する人のクラブ、こまいぬクラブに入会できます。マナーを守るメンバーは「いいこと(特典)」が加盟店から与えられます。これを今、着々と準備しております。こまいぬクラブではテーマを決めてアンケートを行います。加盟店にとってもアンケート結果を知ること、それを経営に反映することができます。また、ホームページ、新聞での商店の紹介、商店の特性を活かしたショップツアーも開催するつもりで今準備に入っており、実際に企画も動いております。マナーが悪い人を罰金で取り締まるのではなく、格好良くマナーを守っていく層を広げたいと思います。
- ・最後に、区に担って欲しいことです。区民が主体となるまちづくりを推進するために、地域の皆さんをつなぐために、世田谷区の賛同と後援が必要です。認め、知らせ、推進するまちづくりを是非、提案したいと思います。そして、これがきっかけで、私たちもこのプロジェクトを踏み出す一歩になればと願っております。ご静聴ありがとうございました。

図表II-63 NPO法人世田谷さくら会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 NPO 法人世田谷さくら会 【発表代表者】 吉田 けい子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康を保持できる環境の整備 2. 精神疾患をわずらっても重症化しない精神保健の充実 3. 精神障害者が地域の中で、自分らしく暮らすことができるよう、多職種によるアウトリーチ型精神保健センターの設置 <p>実現に向け区民ができること / 区に担ってもらいたいこと</p> <p>【区民ができること】 精神疾患への正しい知識と理解</p> <p>【区に担ってもらいたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害特性に対応できる高度な人材育成 ・ こころの健康を考える区民会議の強化・充実

- ・皆さんこんにちは。千歳烏山を拠点に活動しております精神障害者家族会 NPO 法人世田谷さくら会の代表をしております吉田と申します。どうぞ宜しくお願い致します。20年後の世田谷区が目指す姿を3つ挙げさせて頂きました。
 - 心の健康を保持できる環境の整備
 - 精神疾患をわずらっても重症化しない精神保健の充実
 - 精神障害者が地域の中で、自分らしく暮らすことができるよう、多職種によるアウトリーチ型の精神保健センターの設置
- ・厚生労働省は癌、心臓病、脳卒中、糖尿病の四大疾患に加え、精神疾患を五大疾患と位置づけました。いわゆる統合失調症のみならず、最近では、鬱病、各種依存症、アルコール、薬物、ガンブルとかいう依存症、それから引きこもり。世田谷区では自殺が若年層に増大しております。そういうものも精神疾患に起因していると言われております。これに対して、社会に参加できない区民にとっては大きな損失であり、早急な対策が必要であると思っております。
- ・生涯を通じて誰にでも精神疾患というまでは至らなくても鬱状態、人生山あり谷ありのなかで経験をなさっている方。また、ご家族なり、職場の方、そういう方がいるという経験はどなたにもおありだと思います。それには、学校教育のなかで、精神疾患に対して、正しい知識を学べる場の提供、それによりまして、早期発見、早期治療に取り組むことにより重大化を未然に防ぐことができるかと思っております。
- ・精神障害者が地域の中で自分らしく暮らす、長い間、精神病を煩った者は、長い入院生活を強いられてきました。そういう中で、今、十分な治療を受けなくて、地域の中にいるという、それによって家族の負担を強いられているというのが実情であります。親から離れ、独立した生活を営んだり、就労に結びついているものはほんの一握りでございます。未治療や老親の看護の責任を負わされているのが実情でございます。
- ・梅ヶ丘病院跡地の取得が決まりました。それにより、精神のDNAを持った土地に多職種による訪問、つまり、アウトリーチ型の精神保健センターの設置を切に望んでおります。家族が抱え込むのではなく、多職種、医療関係者、保健師、ケースワーカー、カウンセラー、ケアマネージャー、ヘルパーなどの専門職による支援。本人が家族と結びつくのではなく、家族も本人を支援する一人になるということが大変大切なことだと思っております。
- ・区民は精神疾患に対し、正しい知識を持って、同じ地域で暮らす仲間として支援をして頂きたい。そのためには、区に対して、啓蒙活動に尽力して頂きたい。それから区が担うことと致しまして、他障害とは違う障害特性を持っておりますので、それを十分に対応できる高度なスキルを持った人材の育成を切に願います。
- ・心の健康を考える区民会議がスタートしました。区民参加型、区議やNPOの団体も応援し、今具体化が進んでいます。20年後の世田谷に望むこと。赤ちゃんからお年寄りまで世田谷区を構成する88万人、障害のある、なしにかかわらず、自分らしく生活できるよう、支え合えるような世田谷家族を実現して頂きたいと思っております。ご静聴ありがとうございました。

図表II-65 NPO法人せたがや子育てネットの応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 NPO 法人せたがや子育てネット 【発表代表者】 松田 妙子</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>エリアごと{支所単位}の、虐待発生予防的な子育て支援ネットワークの構築</p> <p>実現に向け区民ができること/区に担ってほしいこと</p> <p>【区民を巻き込みできること】 ネットワーク構築のプロセスの中で、当事者である子育て家庭の参画の可能性と、そのコーディネート（中間支援）、インフォーマルな支援の開発例：</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域別（支所別）子育て支援懇談会、地域別プロジェクト 赤ちゃんふれあい事業（乳幼児親子が小中高へ出向く授業） 児童の自己肯定感のベースづくり（権利擁護の視点） 地域の親子の参画（住民参加の視点） 地域ぐるみの見守りの子育て環境（地域で支える子育ての視点） <p>【区に担ってほしいこと】 立場を超えて協働するための場の調整</p>

- ・皆さんこんにちは。せたがや子育てネットです。今日は貴重な機会を頂きありがとうございます。今日、私は自分が発表することばかり考えてきたのですが、皆さんの発表を聞いて、本当に勉強になりました。何より、すごく力強く、仲間がたくさんいるなど実感しました。
- ・私たちは地域の子育てのネットワークづくりをずっとしてきた地域の団体です。ネットワークから、当事者の人たちの情報提供、子育ての視点からまちづくりへの提案などしてきました。実際の子育ての人達が支え合えるような場づくり、今日のような場であったり、企業との共同での提案・連携などをしながら、地域の中に資源をもっともっと増やしていきたいなあという活動を普段しています。
- ・今日は各エリアに子育てのネットワークを有機的に作りたいということを提案しに参りました。このデータを見て下さい。ちょっと見にくいのですが、まず、左側、子育て中のお母さんに聞きました。「子育ては大事な仕事である」という設問です。この真っ黒のところ、「とてもそう思う」です。その次が「そう思う」です。9割ぐらいの人たちが自分のしている子育ては大事な仕事であると思っています。ところが、「子育ては大事な仕事であると社会から認められていると感じますか」という設問だと、このように割れてしまいます。これは、東京都の直接ヒアリングの結果なのですが、全国調査も全く同じような結果が出ていて、私はとってもショックを受けました。
- ・ここでちょっと皆さんに質問です。「近所に顔や名前の分かる赤ちゃんは何人いらっしゃいますか。」ちょっと思い浮かべて下さい。私たちは近所に顔や名前の分かる赤ちゃんを10人以上知っている人、そういう大人を増やしたいと思っています。「子育てを地域で支える」とか、「みんなで社会で子育て」というと漠然としているのですが、実際、支えられている実感、やっぱり、近所づきあいの中で、我が子を知ってもらって、声をかけてもらうこと。そして、きっと、「知っているあの子の声は騒音にならない」と私は思っています。
- ・せたがや子育てネットで考えた20年後の世田谷区。7,000人毎年生まれる世田谷区で10人以上の子どもを知っている大人を増やしていくというと、想像を絶する大変さのように感じますので、ちょっと小さく切り分けてみたらどうかと感じます。概ね支所ごと位に、その人達のなかで、子育てに関わる人、関わっていない人を巻き込めるようなネットワークが作りたい。そして、そのなかで仕掛けていくことで、住民が参加できる支援活動、小さな相互支援で構わないと思うのですが、そういったものを増やしていくことで、虐待の発生を未然に防ぐ。「起こらないことを起こす」ということができるんじゃないかなと思います。その中で、見守りが実感できる社会になっていけば、子ども達の自己肯定感が高まる。「僕が僕のまんまでいいんだ」という、そういったことを高めていきたいなと思います。そして、きっと子どもの声が元気でまちにあふれていたら、声をかけられる地域が健全な世田谷区のこれからの社会かなって思います。
- ・少し私たちの実践を紹介させて下さい。建て替えたばかりの団地、芦花公園にあるんですけども、そこに新しく入ってきて誰も知り合いじゃない状態の親子たちが団地の一角にスペースを借りて、地域づくりを始めたところ、まちで挨拶できる人が増えた。地域に立ち話ができる環境を増やしたいというところをじっくりじっくり2年ぐらい、今やっているのですが、その中で、外に出て行くことがこわくなくなって、外で遊ぶ機会が増えた。地域の人が声をかけてくれるようになった。関わってくれる人はボランティアに参加できて、関わられて嬉しいと言って下さいます。当事者も自分達の活動に関わることで、役割ができる。当事者であっても役割があって嬉しい。お互い様ということができました。
- ・そして、赤ちゃんとおふれあい事業というのを、これ実は私の3番目の子どもなんですけども、小学校に1年間、生まれたばかりから通わせました。段々歯が生えてきたり、ハイハイしたり、つかまり立ちしたりということをリアルに見ていく。それだけでなく、生んだその人、赤ちゃんとお生活している大人の姿を見せていくということによってイメージができる。それから自分が生まれてきて、育ててもらったという自己肯定感が高まっていく根っこになるかな。そして、地域の役割、お母さん達がすみませんとありがとうございますで過ごしていますけれども、役割ができて嬉しいと言って下さっています。そんな取り組みができるネットワークづくりを提案します。ありがとうございました。

図表II-67 NPO法人世田谷区視力障害者福祉協会の応募用紙

<p>提案者</p>	<p>【提案者名】 団体名 NPO 法人世田谷区視力障害者福祉協会 【発表代表者】 鈴木 忠</p>
<p>提案内容</p>	<p>20年後の世田谷区が目指すべき姿</p> <p>「障害・高齢になっても地域で暮らし続ける」 地域住民、町内会・自治会とコミュニケーションをとり、地域でノーマルに近い生活が続けられる、物理的・精神的バリアのない世田谷であってほしい</p> <p>実現に向け区民ができること／区に担ってもらいたいこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域社協・町会等が重度障害者や高齢者のみの世帯の見守りの実施を考えて頂きたい。 2) IT化が日進月歩の時代、視覚障害者の日常生活用具の範囲を見直し広げて頂きたい。 3) 障害者グループホーム、デイサービスに視覚障害者が利用できるようご配慮頂きたい。加齢と共に一人での炊事・洗濯・買物が困難になってきている現状がある。 4) 高齢者・障害者の生き甲斐として、視覚障害者が能力を活かせる能力開発センターのような組織の創設を梅が丘病院跡地のセンターの一部に取り入れて頂きたい。

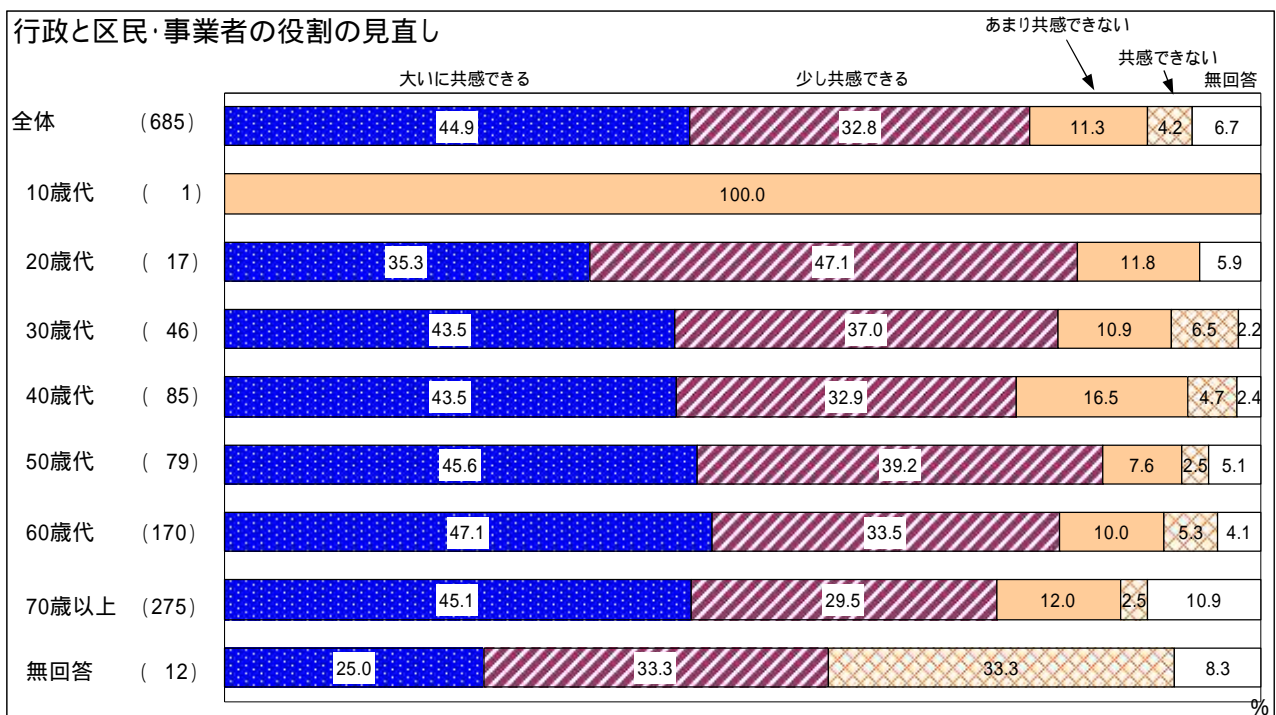
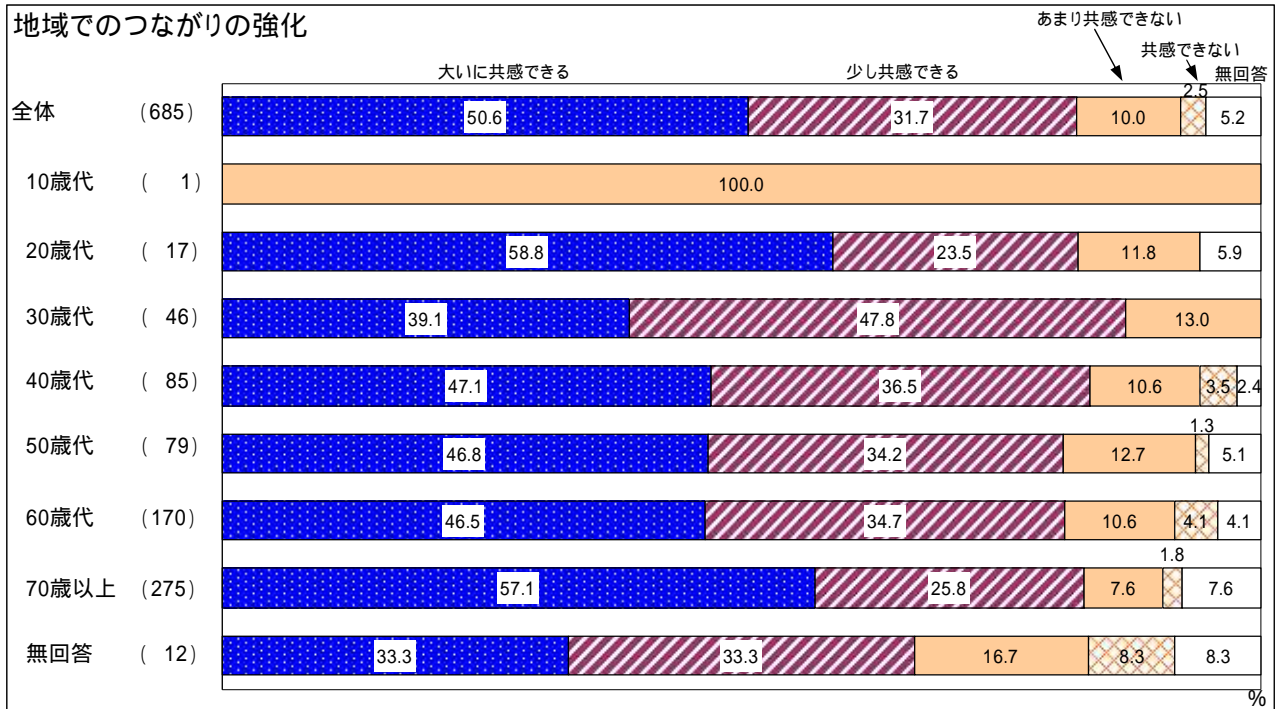
- ・理事長をやっております鈴木と副理事長の大竹、2人で、皆さんの抄録の方に4項目ありますけれども、そちらは逐次、特には説明致しません。私ども2人の考えという形でやらせて頂きますので、宜しくお願い致します。
- ・鈴木が先にさせていただきますけれども、私は48年前に急に視力を落として、そのまま低空飛行しておりますけれども、そのときに世田谷区の福祉部署のケースワーカーの方に優しく指導して頂いて、大学中退して、盲学校に入り直し、卒業後は大学病院と地域の訪問リハビリなどをずっと続けることができました。それで、つい昨年からは私どもの視力障害者の団体が区から受託しております高齢者等のマッサージ治療をさせて頂いております。その中で、私も地域の方々、65歳以上の方々がこういう状態がある、病院とは違うなというのが分かったのですけれども、その中で、つい最近、今週の月曜日に、非常に悲しいことなのですけれども、ある公益社団法人に挨拶に伺いましたら、非常に冷たいというか、厳しい処遇を受けました。ここにあるのは約4年前の区のお知らせですけれども、あくまで世田谷区はユニバーサルデザインのまちづくりとなっていますが、そういうことがあっても、まだまだ精神的なバリアがあると痛感、身に染みて思いました。
- ・それで、20年後、皆さんがおっしゃっているいわゆるノーマルな社会であってほしいということで、あくまで私ども地域で暮らし続ける団体でありたい。私ども、豪徳寺の駅の近くに事務所を持っておりますけれども、そこで、地域ともどもやっていきたい。将来、去年の山中教授のようにIPPSで少しは視覚障害の方々が軽くなるのかもしれないかもしれませんが、世田谷区において20年後の中に障害者はゼロにならないと思います。障害があっても世田谷区に住み続けられるような、それも物理的な、精神的な障害・バリアのない世田谷であってほしいと切望します。そして、具体的にこの近くの梅ヶ丘で長年まちづくりやっています大竹にマイクを渡します。
- ・私たちの会はお陰様で50周年を迎えております歴史のある会です。残念ながら、会員100人きっておりますが、構成からいくと、私のように40代の若いものが少なく、高齢者であることが切実な思いでございます。会員のなか、また、全ての皆さん達の団体の取り組みの中でも共通していることとして、障害があっても、高齢であっても、先ほどのようにいつまでも世田谷、地元に行き続けたいというのが切実な思いだと思います。そこで、区のご決断によりまして、私の地元であります都立梅ヶ丘病院の跡地の活用、これが急務な問題だと提案させて頂けます。
- ・20年後に限らず、これからも一步一步、安全・安心のまちづくりのため、このような素晴らしい機会があったからこそ、世田谷型の福祉のまちづくりの再構築を望みます。例えば、災害時の拠点となる二次避難所としても活用できること、それから、地域の方々が私たちを理解して頂き、就労、活用できる場として、住み続けられる場として共通して言えることだと思います。高齢者、障害者にとどまらず、若者にとっても全ての方が暮らしやすいまちの拠点として梅ヶ丘病院の活用が最も大切であり、全国の話題となることを期待しております。
- ・最後に保健・福祉・医療の拠点として様々な団体からも要望かけて頂いているように世田谷型の福祉のまちづくりを目指し、いつまでも絆の深い世田谷であってほしいということを望みまして、こちらを提案させて頂きました。全ての思いが届くにはまだ時間がかかりますが、頑張っていきたいと思っております。以上でございます。宜しくお願い致します。ありがとうございました。

区民アンケートの実施結果について（年齢別）

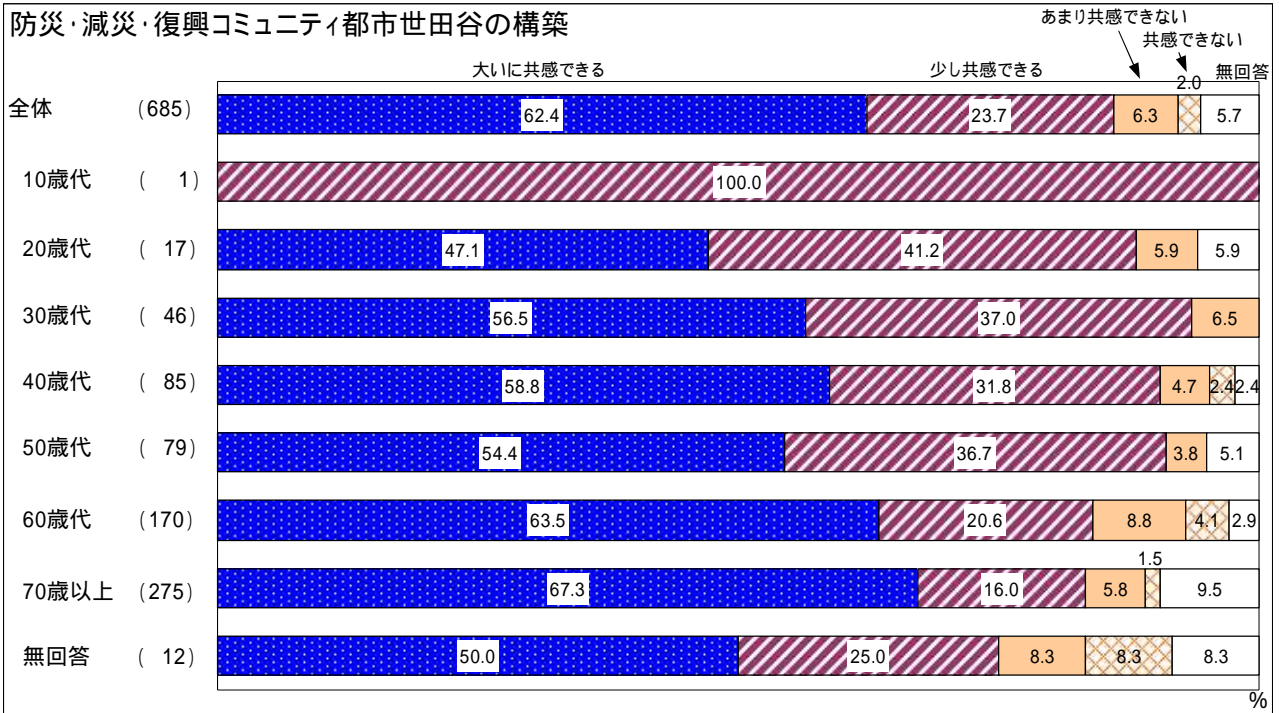
1. アンケート集計結果

問1 基本構想審議会の議論で挙げられた「世田谷区が目指すべき姿」のそれぞれについて、どの程度共感できるか、お答え下さい。

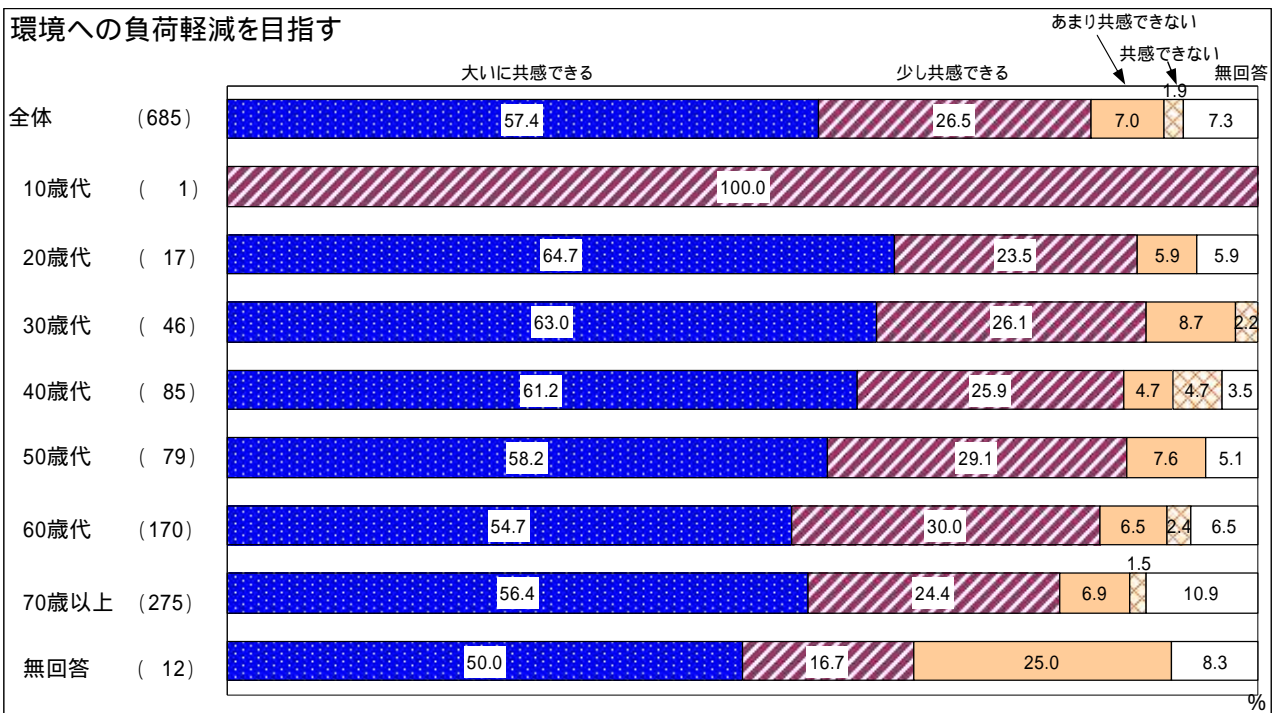
世田谷区が目指すべき姿



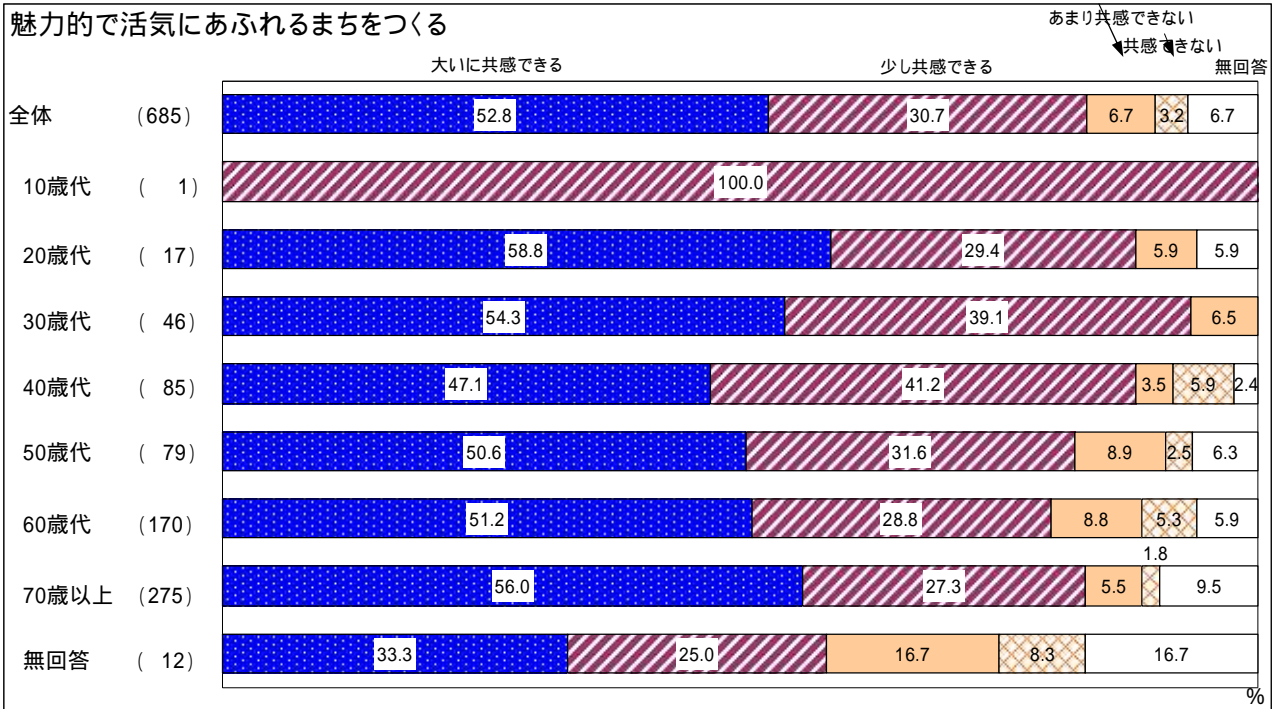
防災・減災・復興コミュニティ都市世田谷の構築



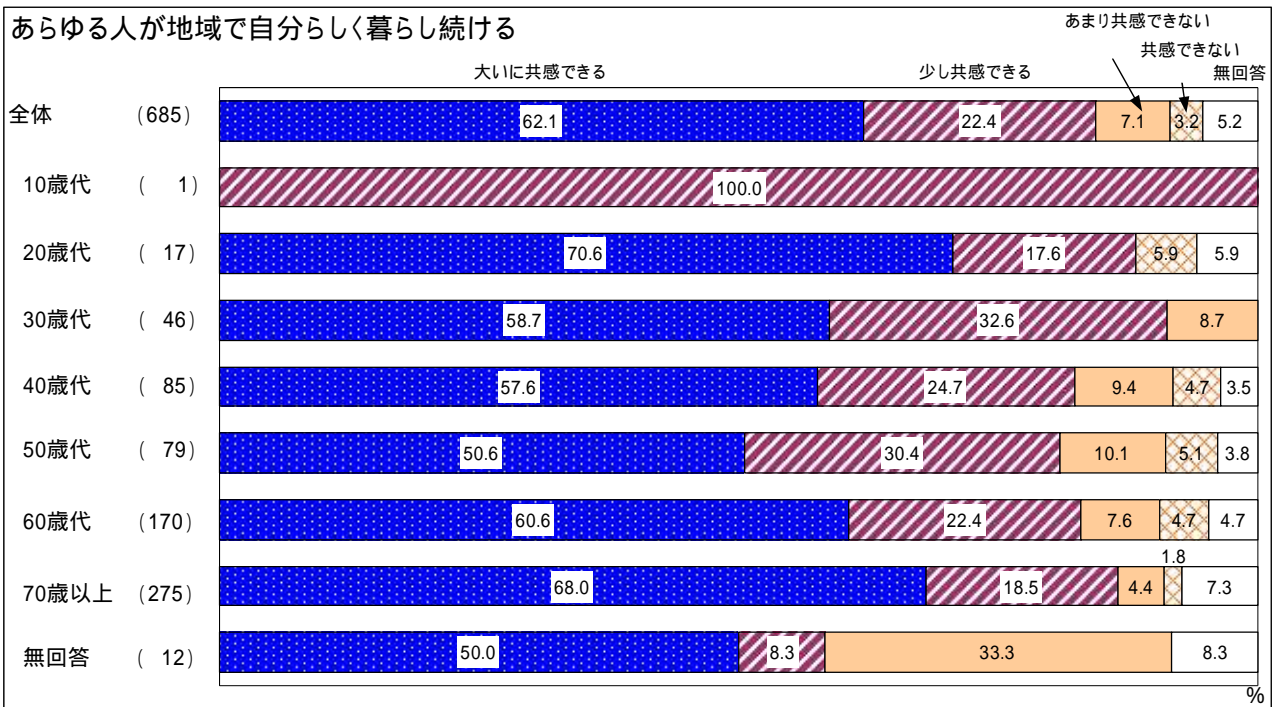
環境への負荷軽減を目指す



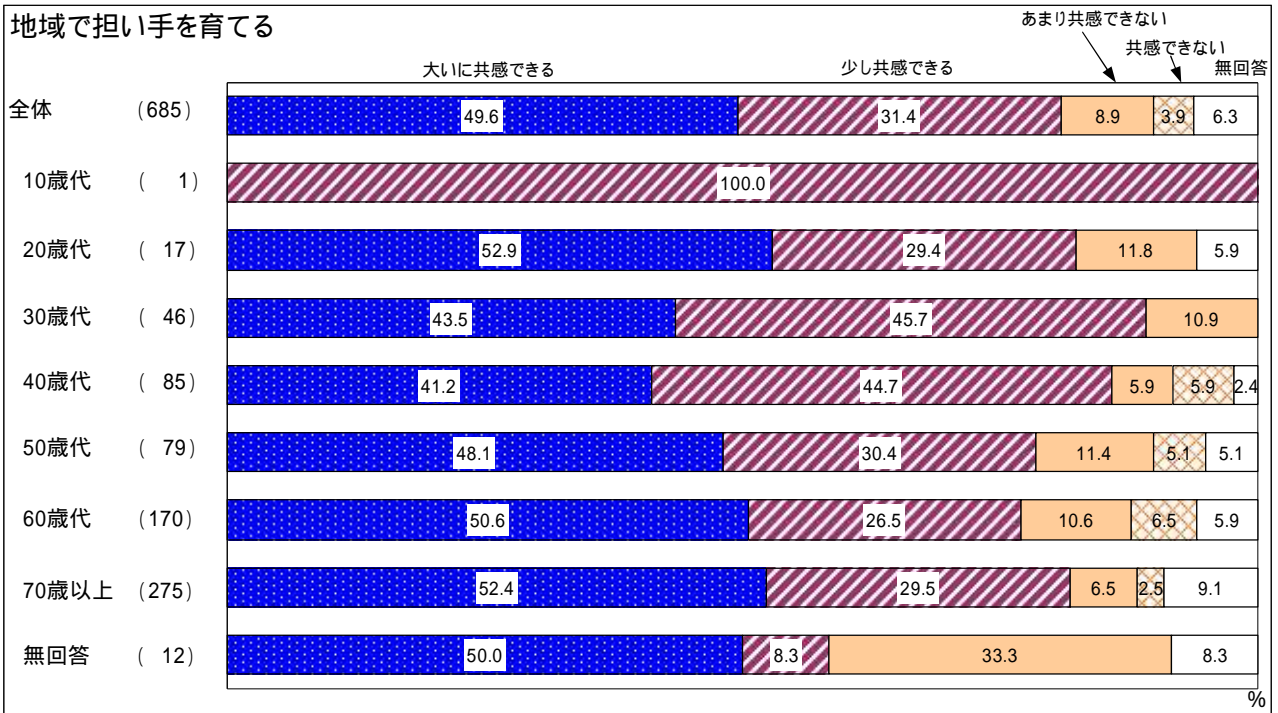
魅力的で活気にあふれるまちをつくる



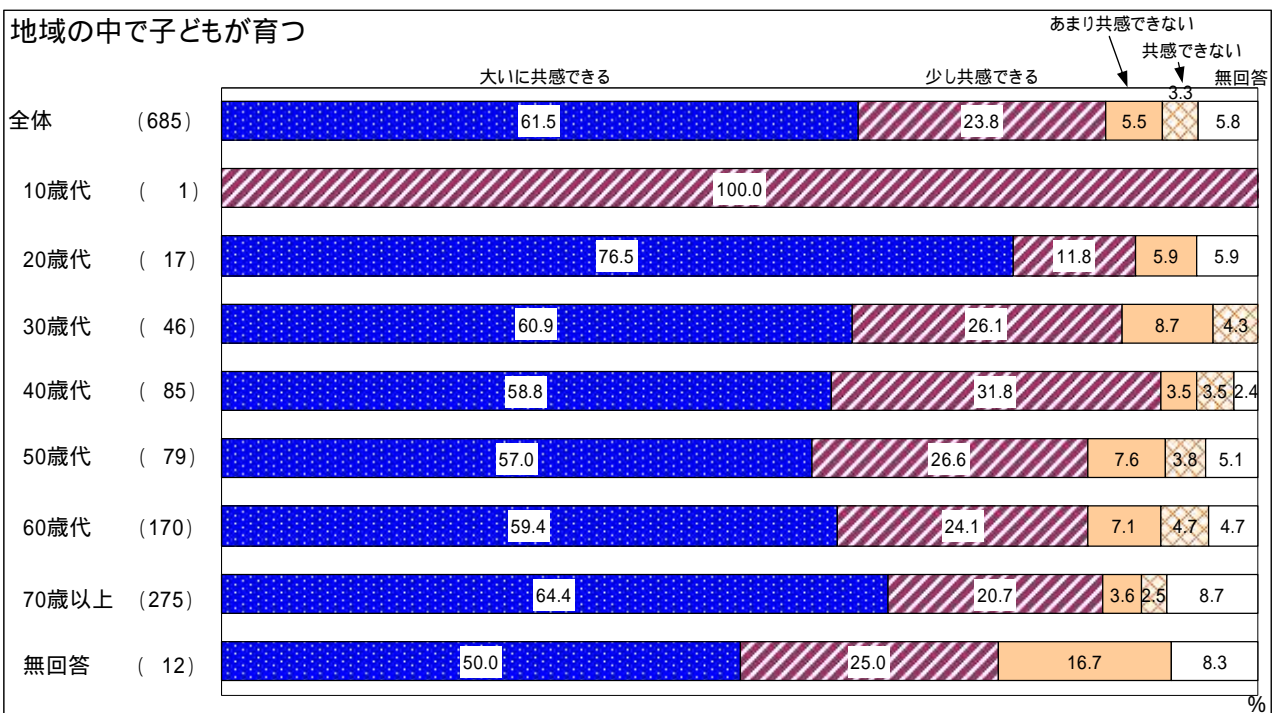
あらゆる人が地域で自分らしく暮らし続ける



地域で担い手を育てる

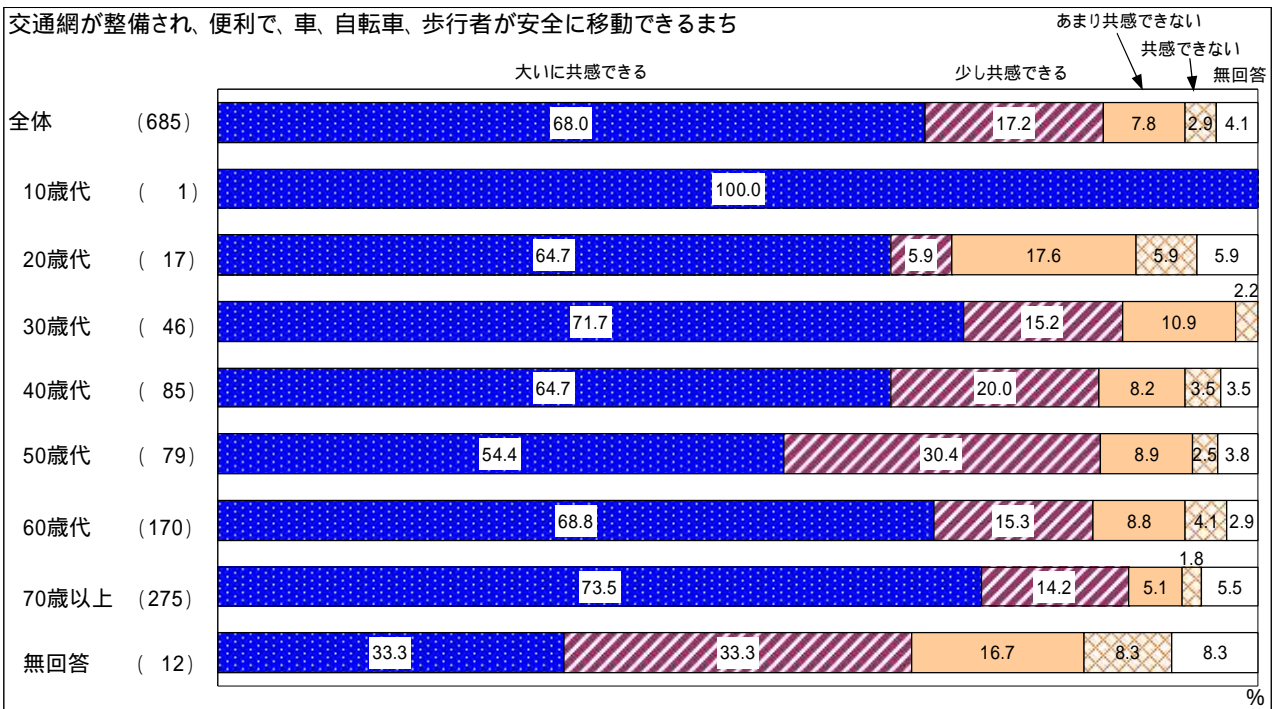
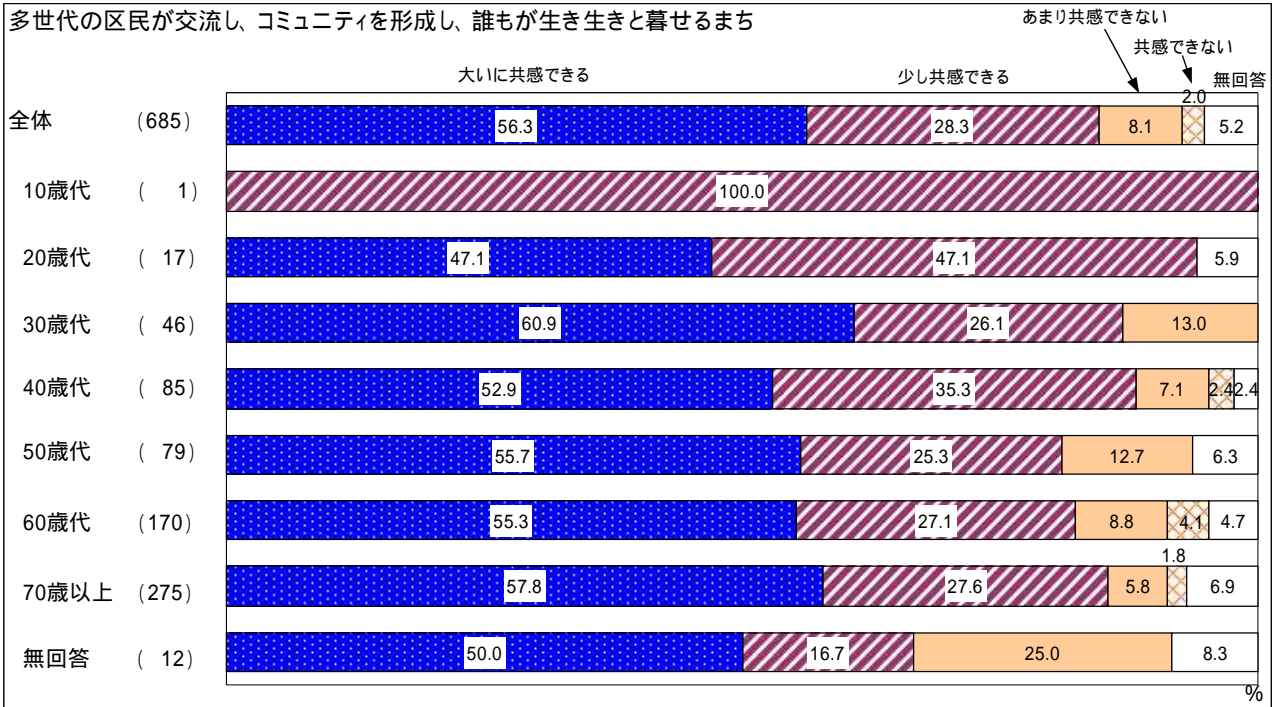


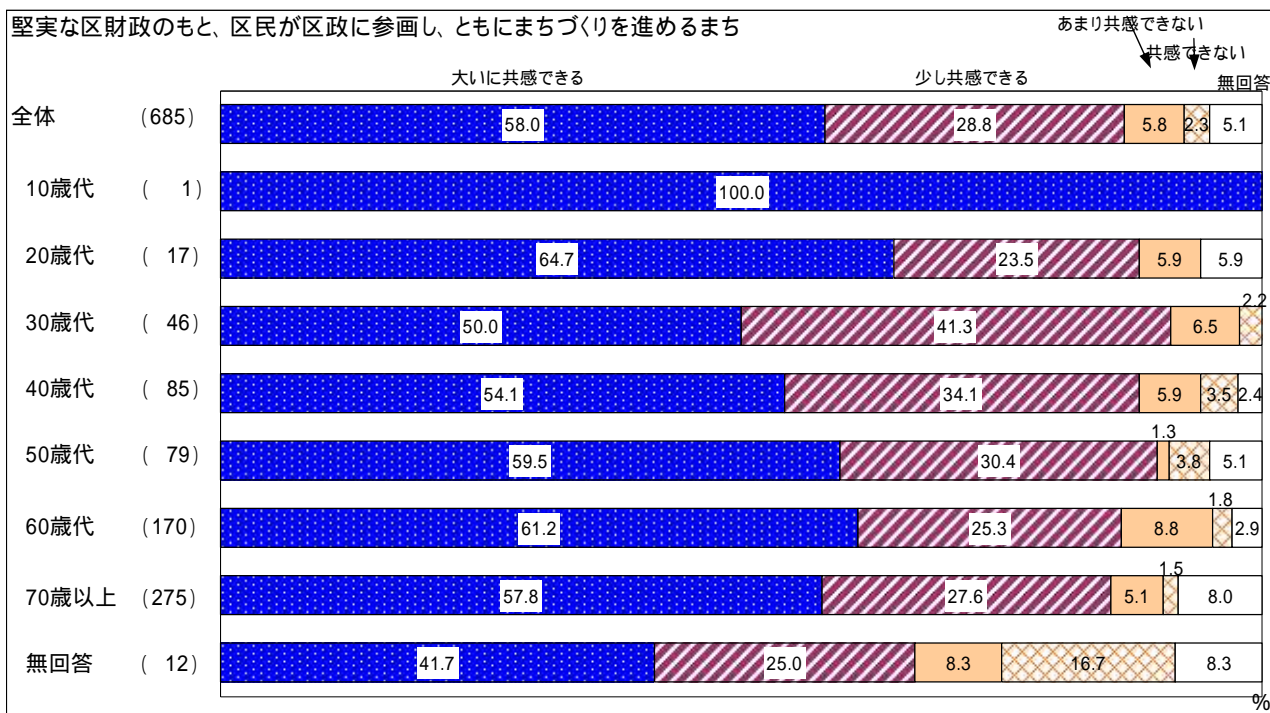
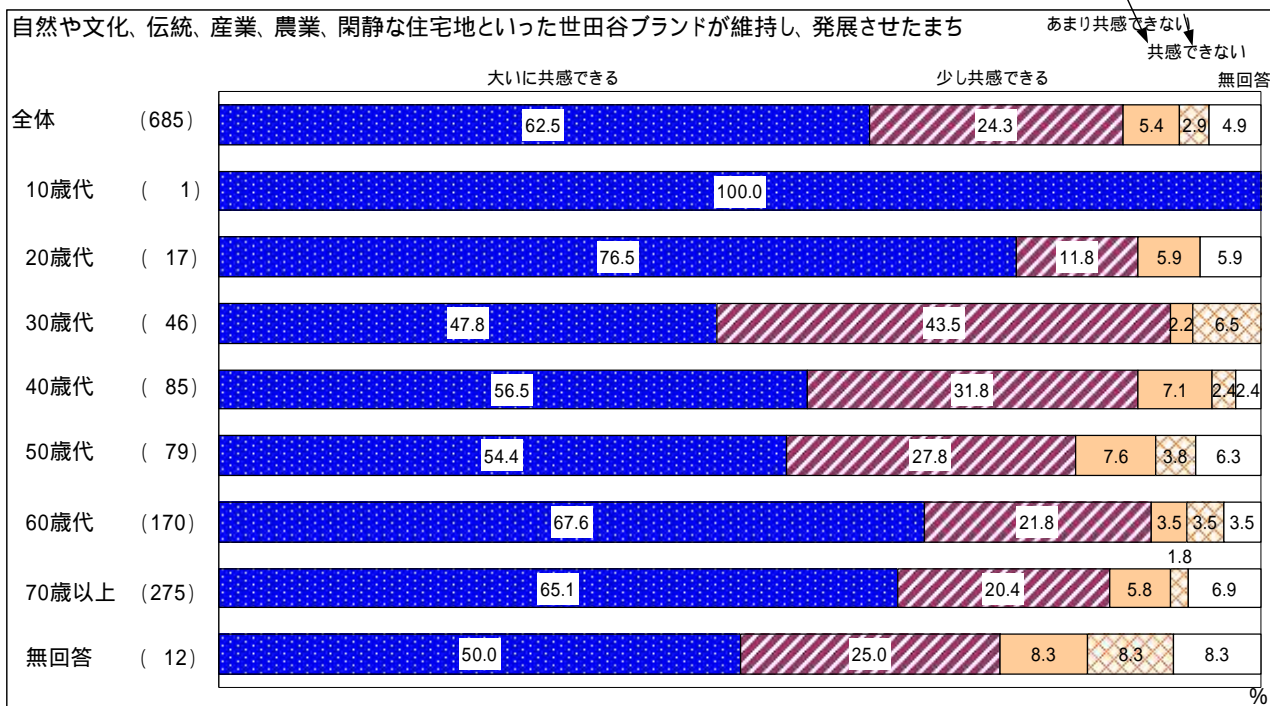
地域の中で子どもが育つ



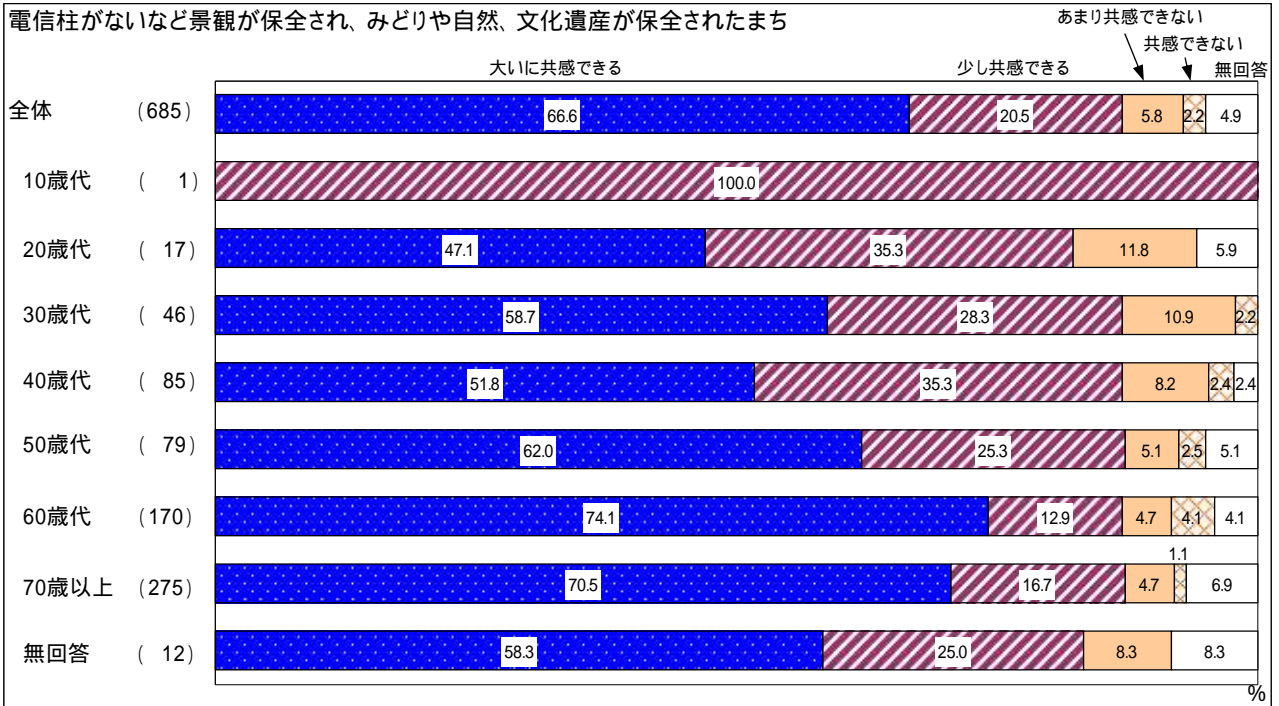
問2 区民ワークショップで提案された「今後20年の間に実現させたいこと」のそれぞれについて、どの程度共感できるか、お答え下さい。

今後20年の間に実現させたいこと





電信柱がないなど景観が保全され、みどりや自然、文化遺産が保全されたまち



%